源氏物語評釋

第壹

五

和書門
類
二七四三三號
八九函
一三架
一三冊

内閣文庫
和書
類
二七四三三號
一三冊
一三架
三〇四函

内閣文庫
番號 和 27433
冊數 13（ 7）
函號 203 38

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

萩原先生著

二帙五冊

校正
譯注

源氏物語評釋

鹿鳴草舍塾藏

明治十二年購求

帖五

若紫 評釋

【釐】以歌為美名也[illegible]ふつゝそいつゝうもんむゝさ氏の祖ようよひてる野べの日ふ若紫とわがきさ[illegible]ゆ[illegible]式部々の姓名を出て[illegible]と名づけ侍るハ藤壺の女御[illegible]

【新】此巻を若紫とつけ[illegible]ハ[illegible]根を用る[illegible]ハ種[illegible]ゆ[illegible]伊勢物語に春日野のゆきむしたのすり衣とよみ[illegible]女を[illegible]と人てあるをもといひべきを此巻ふとうへて若紫といへりとあ[illegible]ハ紫草のゆかりそのゆゑ物語の詞を仮りあく用ゐて若むゝさ氏と名づけ[illegible]かのうへ[illegible]氏[illegible]

【玉】源氏君十八歳なり

【狀】若紫といふ名のゆゑあとゆゑ[illegible]釈のごとくあべし[illegible]ハ[illegible]ぐ藤壺女御のゆゑ[illegible]ハかの祖ようよひてるといふ[illegible]

てたりのこゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ハ未[illegible]ふ[illegible]

【評】此巻の段[illegible]ハ未[illegible]ゆく[illegible]ハ例の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

此書の照應ふく同年の同じ時なるを後世もてせるを又平下に別の書れ世のうらぶ
祝とうをひて八てあうつくこふいりをひく六條ゐてうりあどよかまきさうをあれど
ちくことあるも此書れ照應ふく既ふ書を二条院へむくをひをちせるこかてうよま
ふ二條院ふ於ちくまバむくまれの君いもうつくれるゆひをくくまあのううなり何
かくさとあうるアとれ中ちよちくとあるハ世書のをを後るるて世と征とを二ちふ
ちけく反對ふくちるをひくふ結びちるる所あり君ん人世稱ふちく仏をちでむべくいひ
ちびり巧ある出ざまるてらいあでの人れ君よ人ぬこでもおり
○北山のうまみの院なるゆ〻伝教の僧坊をちれいでかこふ女てをみられちくをうげ
あるをちあどどもちれ人くわくそびあん君やるといよちれさて佛くちくうの山へ源氏君
のやうて京のうちを君ゆふより書くく漢應ゆんの書をかゐ居さ伏案をあくハさまてる
書つきいひちくびめでしその中よ絵ふいとよくも似るる和又南君いちどうちれ佛ちせ
ちそんちど絵のよういひ起されるて孟津ふ源應ちて画をちれちひくくこのおこう
なりとあるどくかの日記をちどさきちるべくくこの脈つひよ後合ちふふて
ほくちびれちるいひちびをちし文擬應ちの子れ今年義人よりかくわり坊ちるとけるて
後ふ良清と君てちる人のちあるをちくふハをちあをあふされくてちるれ後ふ如さまき
ちる又その良清ちどこと伝いひさくくれ後ふ如石上の媒とちるべき種ちをはされるあど
すべくいきくちもいちどくなるとちあ
ちくくべの伝いあくおほどふらくくちれさゆ伝あくくくて世書上をちいまんちよ所よ先ッ崔子をちり出て
ようつり後世のちより世ちをうくくちめくくちひちひくあ姉君のくくよ狀ちけひよ
按察大納言の母ちうくふちちりゆく次第いくめでしかくてけうんまみのさ海をくくく

あくちくあるくてにさるハちどうあうくんをつくくゆるくいくようれ似ちまるがまわち
ちくありくちわくくちやちちりくちる抑揚の勢ひいちくくつくいみどくゆくさちうさて君ちのあ
などちみくく尼君の打ちをれちくる所へ傳教のきておどちうくちるちどめあど持ちよちし
ちて次ちかくまバちのすきめのどもハちくくとて狩ちのあ狩れ平定の脈をけりてあれちる
あどちも透間ちれ君ちれ傳ちりあけゆくちれハいちくくかすくてちいふちりハくで此傳後を
けやちりて源氏君の才と点ちとめいくどの
の半类くくちくてこのひどちくがるゆをけ結びちるれ文ちりさてかりちひくち市へ聖
○藤壺宮の出半れどうけちよめでくしかこの所ちふもかつぐほせるどくく世ゆ上の色
出てちりてくくちくあくくちくを来りてけひちよ世ちくいちりてまちくくあひちへくくを
あくハされいちれくこと出ちりち後ハ藤壺宮の悔こ恐ちのちりをのくかまてちる都どいくちよ
ちくくちそくれを世書ふくも狩どちちくくる八世ちのちれくくあ中ちふ書紀をちひて間隔
くくちる法ちるハ勿論ちるまでかのはちくくちくくみのゆちりを尋ゆ出ちのくちよ拙のまどれの所ち
をちくくみちふくくを出づけてゆちりのちを世ちよりづくべき結據とちれちうさてそめ
末ち源氏君のれどくくくくくのあ君めくてくくをちのあ所ちくくくくまり
ちくくくハ相壺君ちふ宇藤の相人どいくり年のやく妻くくちりて末ちちちるてやどて
下の出くくれ源氏君の盛衰の伏案をくやくちあてくくちちるくくをちくくど
○尼君の家をちひくくちれちんくくちくて八世ちくくをくやく後くくくん後ふちの
尼君失ちくくくくく

半ハさでうりいとさあれ人を扨〳〵ふるまバいとむつり〳〵ものさある成ぞふさもまぐく
することれさる俗のいとをでし兵部卿殿の乳母がめてこうんとのこゝろをさして世上を
さごうりもあめるハ今世のさ海ゝてハいとこいろ〳〵きわゞの事なれども世のさまハうくても
ハして慈なりしこと地獄のふよいくる制度のすまさ此ゝ後ゝ新浮舟ちどさ曲〳〵の人此
うへをあひて〳〵て物〳〵ふべう〳〵ど兵部卿殿紀ゝ北方のこゝろも後〳〵のまそふを孫をかさば
あ〳〵ふぞれこるをんをとつけてこんるべきなり

わ〳〵ハやこ 細俗ふり〳〵おこうん

蘇和名抄云瘧病說文云瘧音虐俗云衣夜美一云和良波夜美寒熱並作二日一發之病也

孟まぐ〳〵ふひハ厭術〳〵加持ハ真言教陀羅尼のうん 釈ようげをいくるハさまぐの呪術とつゝてせさをのひ〳〵をのうん

ある人小山よあん 拾小山とハ不もあれどこまハ北の方ある山 釈同注ふ小山のあゝじちを鞍馬寺とつて准擬ものく挙られさきど例の用ゐられバ引出ぞうぞものあるうのうのうのうんてうのうん

かうこたおこうひく 釈さまぐの修験道を行ひて行徳ある僧を云

くまぐるひうぞうひ〳〵を 釈去年のなも瘧病流行しさる時ある〳〵人のまぐるひうひを此行人ハ速よまぐふひうぞ邪鬼あまさうとうる

ちぐ〳〵〳〵つる時を 細瘧ハを

そびうつて医くおちあるうん

○えもむ〳〵さた

俗民云

わ〳〵ハやこ〳〵ふるづ〳〵ひ治ひてのうびよま 瘧 煩

ぐふひうぞるのぞまるせのぐぞちうのうふく 加病特

て。あまつてびおつうあ起遍 数

ゆ山よなん。ふ。ぐ〳〵寺といふこゝ法ふ。 某

かうこたおこうる行ひく治ぞのなつもせに 賢 去年

おこうるひく治ぞのなつもせに 行

（瘧カ）

とぐむるぐひあまる治ぞ。ぞ〳〵〳〵 止 類

たる射ぞうて治ぞとくこてこうこさ 厭 呪 カ ネ サツソク

せたうあぞ吟ぞまバぞ〳〵よたうもつる イヤク ハヤク 試 分行人ヨ召

よぞいぐまうてむうのとふもまりでぐぞ 老 屈 保司 室 外ソウ

まうしうれバぞ〳〵ぐ〳〵きんぞとものびておをん。 ドウ ショウ ユカウ

釈 きでころハ縮凝のさなるべし
まゞおハ損ぜれバ病の縮ミ麺く
ゆちるゆるさゝあり
とくてをいさせのへ 釈 そゆく
彼ゆくをめて試このくゝ
老ぐまうして 釈 老屈して室外は
もえ出ぬとゆくのこゝろやうゝ
いゝぐバせんゝ 釈 さゝバいふせん
ようちのびてゆんとのまゝ
ほとめゝゝ 釈 ホを信のむつ匪
きんぜう四人つれて行ゆゝ
やくふゝゝ入るホあうゝ
釈 行人の来るホハやゝ山ゆく入ホ
あうときゞこを岳ホのさゐをとに
次ホ入りて坊ハゆゝ坊れゝ坊をひ
ひゝゝ寺れぜゐゐもとゐ文章次第あり
やゝひのつゞりあるバ
釈 三月ゆるゐとゆゝゝ必ゝも晦
日のゝゆホあゝぐゝまの十月れか
どゝを大ぞうよゆゐ俗世ゐ法世ゐ
みゐるくゆきいゝゐのゆゝぐ
玉 ゆゝていゝゐの中かすゐゐいゝる
ハ山のゐゐれ出ゐれ立めゞれる地へ
岩庭とんゐるハひゞゝゝ

とのゝまひて。ぱゝゐぶむつまゞゐ四人で
ゐゝゝてまゞ
いゝ府なりゐゐ
京の花ざゝゐハ
まゞゆゝゐゐて
の生くゞまひ
あゐゐ海もゐゝ
ゐゞしうゐゞ
あゐゐ生ゐゐ
ゞゞ。ひゞゐい
生れゐゐ

眠 近 (北山) 深 入 三月 ス エ タナヤウ モオモシロウ (源ハゲ) キウクツナ 寺 イヒ 巌 珍 殊勝 聖 入居 召 (御方) 知 テガルクシ

孟 いゐゐんいゐゐの中ふすもバゐえ
ゐのゐゐゐゐのゆゐこざゝん古今雑下
ひゞゐ 釈 行徳ある俗をいゐゐゐの
ゐゐの俗徳くゐゐ法釈ゐいゐり
げんぐゐゐのゆゐゐひも
釈 験の方れ行法もゐゐゐさゐ法ハ
修法加持ゐゐの効法ゐゐゐゐゐを略
きていゐる俗徳ゐ旦注ゐ現世の祈禱と
いゐまゐゐるハゐゐゐ現世のゐゐゐゐひゐ
徳バゐいゐハ老屈ゐて後世ゐのゐ彩へ
まバゐのゐれ修法ゐて人のゐゐゐる
るゐゐバ拝ゐまゐゐゐとゐゐゐゐり
ゐゐハ世ゐの俗ハ大ゐ修法をひゐを
ゐて何者ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
西目ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
いゐでゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
釈 修験のゐハゐひゐゐゐいゐゐ
しゐてゐゐゐゐんゐゐ捨ゐ捨ゐ
評 ゐゐゐ死ゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
しゐゐを抑へゐいゐゐゐ死ゐ大ゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

なるまでどうれたちうまわってきてぶがる
廊　リツバニ　浄
ぶらうれどつぶやてぶつぶちいとよーあるた。
タテツバケ　木立
なるべくのまもむまるととひのうへばぱともあるる人。
ムラニ
こまるん‖なよげ　某
ゆるぶ坊うに行るたれ。（承付）ぶさづうた人さ女
二年　（下中ス）　（ア）住
ある所よてたのまぶ。あやーうもつまりやつ
コト
しけるれぶきもてすれなどのるまう。
ソギ　（曾都ノ音ト）
きよげあるるまるるちどあすまいできてあら
浄　童　閼伽　水
ぶつまたたちりあどきてるも。けーはよるんゆ。
（伝付）
かし女てけるまぶ。伝説はよとさあう
彼　處
まるてさるんたちぶをいるるんあんどんぶ。
（女ヲ）居　ロ々

尽一酒をたさうぶきあんとけり　釈　あはをてとまてるあり
今俗はふうとりてのうまを世は伝ま
今飲とあぶ
まうーえ出つ　釈　かのひぶ所
をかーえいぶーえまーまうぶ
まうぶう　録　要覧云韻林云坊區
也苑師云坊區院也　釈　今世寺中
といふものきはあり
うぶこのたぶらをうの下ふ
釈　うぶこのとうふうふ氏えの何と
えうべー何の中ふ所のきはをつめて
けうーまーいへる法あり　玉つぶらとう
はをまぶまぶうるはのきまれ黒葛の
さあふ似るよりいふるあるべー
同ーふはまあまぶ　釈　うーばーふ柴
垣さ垣の字ちうるれ又かくいひそも
ゆるせふはさゆるーふもあるべー
ちまうーてといへうすふいち垣とまうと
うーきるゆく屋廊あぶをふ緊ふて
あうるゆうふゆゆる氏ふかく泊まるく
あぶういとよーあるハ
釈　本をきりすはあぶとてんあてはと
めたうるきまに作りるをえあるべー

ありあぶー伝説　釈　あはぶーハこの
伝説の名をうぶたあるる氏伝れ
ゆをかとる掃行あるるふあはぶと
いへるを四注に覚忍伝説とせれる
ハ例のあひうる准提を泥むべうん
こりり作る　細二年桂是のよー
まーあもんうう　釈　禁是ハ伝ぶれ
行法のあるあて年をうぶうてとぶ
こりりーこ
ゆうぶーきん人　釈　かひてまうた
へるんうてゆんぶうく用さあるまるる
あまうゆうーうるるふ
同　（ア）ゆうるるふ伝ぶもまるあ
かうーーまるまるのうまうあ
きうぶあるるーハあぶ　田女のまう
ハなうたたるるーハあるべー
釈　氏虎伝のぶーそれを虎伝のん死
たーくうーーまー女てまるれとゆうる
あるまうたたるうぶ　釈　伝ふ虎ぶる
水を潮伽とゆ梵語ゆ　録　四分律て
ゆくのうまを併のあるく
伝説ハあるまるーよハ　釈　伝説ハ
伝伝のゆんあればよも女をべうー
あるまーとまうすあるるうて　録
しゆるる

○えあるーうまれ

いよおりてのぶくもあうーぶうーげある女ぶでも。
（ウウクレ　サウ）　（ヨウチ）
（道逸ハ）
まうたたんゆうんあんんゆるるといふ。ぶハれた
ぶ　女　童　行
なひーのあひつーぶうまるまるーぶうあんんと
法　高　（伝付）　（金瘡ノ）ドウデアラウ
おぶるるるぶーうまぶーーいぶるるーく。
カレ　コレ
おりりーいまあんよく伝るぶとゆあるぶ。
（云病ノイヲ）イまうくのうく入
涼　後
うーあるのあーーちいぶ。ふのうるるとんる
（伝付）
ふぶるるうるかるるるるるみるるるてよものあぶぶ
遥　四方
ーーるるるーー

国立公文書館
National Archives of Japan

君がおもとをひらかひて　新　真言ぞをとげく誦しまるべし
とうとうさいさいはさやをひく　細　おとりハいつまざるべしとあれば　釈　おのれ入るべしあるく
案ずべきなり
うしろのやよ　釈　上よりをうしろにちいでくとあるは物の中あてしてうしろ
意味は物ぬぎ合式いのうとあるは物の中あてしてうしろ
くるりとまる　釈　ふるハ木芽のかえり物成りの
あるいとくるくも　玉　此句上りのつぎハ地の句れやうあるとでも地の句れさ
例の詞の中よりとれをとる法ある四句ハかるるあるよりとせられさまでひらくく
かるるあるすむ人　釈　うるくふりとれよりさあるまむ人ハ人ゝまあるとてハあるまでとく
こまきハいとあさく行りく　釈　伝授の人れ句ぬかるるあるハ
人のくふ　河　えるのうえハ行ぎるく　細　他ぬ之伊勢地後ふ人のまるとも
いくとは後いのぐりまさくせのくん　義　源氏ものぬ
なるぬぐのくけ　花　おるぐのくけハ越ぐて
射ているあく
よるぐよまぎくりーいも　釈　よるおりりいまあなんちまさとあるーいを尾
ちりれあるハくく　釈　法伝の中れ一人ぬ句ぬまるとあるぬ句ぬくるまぐあるハ
ふるくりあるとぬ例の文法あり　湖師　こまと須テゆるをくぐき張をあり
ゆるびくるあるあるく行る　釈　此句ぬ俗ぬツンポリトシタ
うへあるひぐくとをりハ法歌よりくりまてあるの
くるきあぐるあるハくくツンポリト後くはくあるあるとりあるさ
あるりのをや　ゆるハあるふ法花高あるて海のあるて八寛大
かのるあれされのくまやち　釈　前の接ぬちひれのすく　河　新發ハ初て入家門人の名也初發心の義也經よ
新発意菩薩ちあぐぐ　秋　新発意をでのくまるとあるくくとあるのぬ俗ぬシンポチという

いてくく　玉　いくくハさくくと
あるまぐれるのぬとひのれおぐとう
ハよれをあるくる句く他をふれさ
るぬ句ぬまるとぬ接ぬおるのの
ぬ法ぬれれるとうく
大井の後えて　湖師　侯子孫とあん
ぬるぬ　河　出身さあるをも
ぬ仕をるまくくうるくるくう
ひぐるの　玉　変あるくくとうるくく
すべてひぐくとハ法あるぐれるまふ
連ひくるくくくてひぐくひぐくく
ぬぐむぬぐくくふをくくく
をれのれれをすくく　細　中おるぐくるれれをくくるり
の後ぬて法ぐのれあるぐき成ぬを
をすくくあるるまるんくくハ頭
を今のるるあるくくべくくれるのひぐ
るのくハいのくく
くくくれるるぬるくくるるぬるくくるるる

いとゆうしたたの坂ふくぬ出世もさて
べうわをる人のせれひがもれやてはらひも
せぬぞ。ぬ(コノ)ぬの中ねをすてゆ(ヘンブツ)ぬ(ソキアヒ)ぬる
けるやるまでぬ(播磨守)がのくれ人もまてあ
ぬづ(播磨國ノ)まてくだ(面目)なれめいぼくまてうぬ(フタビ)ぬこ
ゆとうんといひくぬ(頭)からはぬ(下)ぬ作りぬる
をすて(チト)ぬくまわるぬぬどみめをぐざる
海づ(バタ)にいぬぐわるぬ。ぬ(ヘンチキナル)ぬやるぬれど。
げ(イカサマ)ぬのぬれぬちぬぬ(サウモ)ぬこのわみぬ(竈居)
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

滅罪王の所よ　細　民間よりはじめて

いろいろとそのこゝろをこゝろ

釈　此の伝のごとくいろ〳〵ものを拾ひ

もぐせさがしでゆよりはじめきこゝろ

よつさて御ゝばかりこゝを遠方のごと

くゆハあるまゝ〻れば海よりく祇王の

所とあるべきいろ〳〵女あるん入道ノイヲ

ゝるさのせゞるゝやとそ〻く笑

ふさあるうさて滅罪王といふ名ハ仏

あるよりゆくゝあるまでゞ但注涅槃羅の梵

語の釈ハこゝよりあり

かくらゆハ　釈　かくらゆとハ試あるゝれ

釈　数さこのひすあれすを御ゝるる

人をきゝそいろ

義人よりこゝゝゝゝゝゝ

花　正月五日の叙位よ六位の義人ハ

うあゝゞず巡爵とて従五位下に叙せ

らゝゝゝゝゝゝとハ爵のゝ

かのゆさこれゆゆどんやゞうべき

釈　この物語さる六位の義人ゆゝ長

あるきバかのゆ位ゝんそゝき者ゝを

やゞりてこゞ物とせんのゝんあゝんと

釈きくいへゝゝゝゝゝみよるゝゝ

よゝゝゝんゞゝゝゝゝの義人ゆゝ

ゆゝひ物ふゞゝうハあゝゞゞゝちんゞゞ世ゞ

作ゝあゝゞ代ゝのゝふれけゝさるゞよゝい

ゝとゝゝてゞさゝんゞゞへゝゝゝゝゝゝゝゞさゝに

ゝうけゆゞゞゞ

こてめてなすのまこおさけぬきんまあり（イて）
ゆつでぴさて（サウシテ）なやひやそくててをぴそもみひとら（得）（置）
じそとやちどいまもあり。ぴんそたんあらく。（入道カ）
うみのろこまでふつうろひいるんんそまい
海　底
のみこんもものむつうあぐのまひて。（ミツクラメ）（ゆけん）
ぎぐりおやもんぼうるを。かやうまそも。
ヒトヽホリナラズ（コヽカシウ）
なぐべくなくぴぐ（ヒトクセカハウタ丁）
ツウレイナラズ
ぎろふはんおまこぐ（朝石ノ女ニモ）（イカ）耳　ぎぐ
やとんまぎ。（ゆけん）ぐまかりぬまぐぐ。（ゆこらせ）（瘧）
ろそびなわあるよこてはあまこぐやく（帰）
らせまひちんとまる紙。大とこぴあのろよ

なぐ（加）くまるまあまあまこまるまる紙。（今）
よひてあぐ（加）ちぐ（持）ぐまありて出（山ヲ）
夜　静
させ紙くとやさぴ。ぐとけるくこられ人やて（御供）

ぐまけあぐくこのくなるゆびうーるむるくもあくさやうふこ
ふ他人のあぐけあぐが年ーふゆくさとやすぐ行考ふぐー
君ハ行くありてこく

釈 八尼に行のひありてさやうふはよ流めよくまでハきこもるあんとゆこもあると縁後
こてあやあるこるえふくハ海の孫こるあハ海松（みる）あるを尼る目とひあるを俗こ　底の尼る目もきこあるこ新
なるぐ尼よ行こて海のてこまでハこひくく海よ者をあげよくハゆーんとゆこ引ふ平用

釈 ふゆーくハのこまくぐものこあり
ゆてひぐーこるこゆ
ゆあをいゆあーん
くまこるこるゆまこど

新 葵上に係り直前あぐのやんこるあ尼ぐくこハくうくてク白のこ孫のやつまこるふ心入れ
釈 あぐくあーぐゆてひぐーこるこハーこゆあーぐ変あるるをぬこゆあこるこ
こぐくあり文法まて日のこまこるこるを法師の人れ法平ニつぐあているくさて下よとあるをとくるあるの用まに
いぐーいゆをとこるぐきぬあり

釈 ここより法師の用ニ糸ゆ掃よどハぬ。の法ーこまこる従あまぐ糸ハ上ゆこと
山ゆのけあぐこくこまる

釈 くくこまるこハ日こハ海の上よゆのこれ加（ぐ）れるこ　細 法ゆのけあぐくくこまるこゆ
くくもクダルのまこゆのくをあーくこて法ここの俗法あるこるゆ
ゆあぐれのいこくゆこーくくふ　細 こゆふ坊ぐあるぬゆ日ぐ人目をまのびのひくクこくのこすくこるふこ出のゆ
こぐこの西ありてこ　玉 こゆーのたぐハ今の俗ゆふ直ゆこゆふここ　日さあるこ法ゆ
枯佛まこゆありて
ぬよゆ仏をまゆて仏ゆこ

釈 法ゆこゆこゆこ法師の西面ゆ
尼ゆこゆ

釈 法ゆこゆこ法師の西面ゆ

○法ゆーこ尼

くろとあるこを臣淫まるるや
すぐまをそこあげて
釈そてよう肉のけうまをとくりく
いとり腰のををやをりいあ肉くこ臣
ふくををまるる 紙 ゆふわくいのゆるる
とありくく
中のくこよ 釈中板中腰をふくも
いくふやまげよ 調 病老のさまく
尼君 釈 くぐくとんてむといこん
とて君の字ををくくう
やをそれどつ尼ふあてくこん
釈 痩されど頼母のあるまてくるあど
のさ腰をくあくぬるべ
今くくこんあるあと 釈 源氏君の
ふをみをあん中より肉のさ母をいる
文法あるかをふといくる上文の係
あくくををくく尼
きをげあるゆくふふくあどくり
釈 尼君の腰ふあるくを見るを
ゆくを十ばくりやをを 釈 ゆをのくを
ゆきくぬひぶきあど
花 裏山吹の衣は表黄裏紅也花山
吹は表薄朽葉裏黄也 釈 あどく
くるくくいまくこんをくくふんとあぬ

君もくくる寺びひをなくひきそねばさす
ぐふをくくくさくだあくこんをとの行ふ。
回といくあどこよつまどくるれだゆあどれの
いくくかをくくくこんにまぎれてかのくくどこん
のをゆふあくくでふぶくくはくくくきひて
煙見だくりはこもをてのどこんくくはだでこの
あおおてをとぢこんををくくおこあふ
尼あくくをぷをぐれすくくあげくこんさ
てをくくあおぷなくれをくくよくくあく。
息くくくくくくくよ強氏おをくくどをなや
をくげふふくみおくくこ尼君ぷどくくんくど。

猿寝 シナレ 帰ニ 御供 僧房 上 廉 少 中 柱 倚居 息 脇 西 面 誦

○七

さをををくくを問
おひをこんくて 釈ををくやく
をこんくくくんとくあくく
ああどををどげくくくやくに
釈髪のまれおくくどくくふを
やくふひくどくくくくちをたくく
ていくくあり
あくをくくあくて 細 あををなど
くくて髪をすくくくくをあまば
をくくおやくくくを不あまば
評 髪ををくを仏くくくくをいくん
くくをを尼君を仏くくくくくを
いくくくくくく
をどめのをを 釈 河はやをひのをを
ありげくあをばを雀子のやくく巣を
をくくくくくくくべく 評 氏は尼君の
種性を河より出んをつをあくくをで
まを雀子ををとり出く種子とく
くくくくいくくみじくををくり尼
君くを仏くくくく尼法名のをあく
つひくくを雀子のくくをみぶををのく
くくををけくて味くくくべく
いをくをぶ 河 上京門院の上をを此
名あり宗花御所ふくくり比御所よ

イだくくり 貴 痩 メッキ アンバイ キラレ ハシカ 美 長 カクベツニ 髪 ツテ 二人 童女 出入 白 衣 キナラシ 今 児 似 生 先 髪 扇

ゆくゆくとして。がほそていとあくさてわなして
赤　摺
歩きてゐり。おまごどもやども

ゆめゆめ人にいとまうしなきこゝろぶ
おもひくなりぬるとそのもの涙でなつる。
いかゝ成ゆへなでたゞけづる事をばう
るさがり給へどもそれはてやいとさうふう
ものゝみつふこそおそれおそれ。
かゞりなれどいとうしなぬ人もあるあを。
こゝろ君たゞ十二のそのよはれるしなど。
いみじうものを思ひたうたんうしまう。
きゞ人うわのきんをてきゝばいつでよふれ
きをんとすんとていこゞうふ成ゆへ
ふもさてゞんふれゝをきふゞちふもゝすゞん

藤ツボ　似　ミツメラレル　今児　撫　トク　髪　ウツクシ　キ　ニカ　シカトセズ　世　原　後　カウハナイ　殿　後　コレホド　故　十ニトナシニ　サウハ云モノ

つゝあさふ今の殿ゝんもゆゝ紙
あさゝちまゝとゝうあゝハ御
所あそゝハまの手紙をゝふゝく
ゝハゝゝゝよゝのゝゝ消ゝゝゝ
ん料すて今をゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぬをゝゝふ

又ゝゝゝゝゝゝゝ　玉お納ふハあ
ゝゝ上ゝゝゝゝゝゝゝ二人とゝゝゝお納ゝ
ゞゝハゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ上
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝハ今
一人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝれどお納ゝハ既ふゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

おくまでくるいなくさぶらはまことに
えとうあるあるさとうといふ
ふもとしにおとしまくるれ
釈 同もなりふ今日しも塔つく
よみそしくるくるふさつ
といふさこをとりひくるとふ詞の
あどりひすべてうぐれどし
くよ作りあどう。 湖 ふぼ山よ立
あどうぼるもやざってよくも
けせよのしるすあ栄ぞ源氏
玉補 さ何いどのしられるものの
しるを作るくるえしを語まるうけ
しくるくかしぼさく味判さると云
ぞのうまくこすれ
釈 源氏ものりくら伝ちあるる例の
脉くぞをすてくる作おもけまを
とまきバ乗伝志ま命を延るまう
まとまりといふ
かまびこのすなものどもハ
釈 このハ例のかのとりまこすれ
ものハ おりよあまをしくとさし
ていくこさてこのこハ源氏ものの
こまさんえ出のふさかまあ
まうつくしく人をとんふかのすれ

まどのひよめのしまひるる我生ぐいまなん 呪
きこけ作るいみどう志のび作ひるきバえ 来り
ちり作しで。さふ作りなどらぬこふひも
まうでざりるる。とのくまくだあれいどや。 此處 左名河 合点
作いでよんをり作たんや。世をすてる法 ビンギ
昨のこちふもいみどうよのうまくこ。 愁
よるひのぶるくのはるきまありいでは せう 齢 延 消 ア
我息 イ
おくまくるくれ。 十 作 立 重ノ方 甲丁 カノ 好色

老どもハ男おくしてあけれやう
あるありるさをのくすれバふうを
さるくをもとつるるとかのくれ
地作のさまを笑ひのあるり
部 こ年と帝木の照意をこのもふ
うつるさて門さ猫くんをつくべし
さてもいと 玉 ぬさてもハ俗さ
さてものども雅作ふハめづくれ
つるひざるく。 釈 ものく雅作のつひ
ざるまて深作のどくれさて
かのくれけるるくふるるつまぬ
釈 かのくハ茂毒ど茂つどいそぎ
してもるるせるハ例の脉くかて
学ものて世上を茂毒のはるる
とあるり物る結様いめづし
ふるるとふ作くんをつくど式人
源氏ものよ賛くるる第一のはるある
茂ものり
よるるるおくるくるよう
玉 すべてよるるとふ云ハよれてある
さてふするうこもなるさまて作
都の坊ハ立ちびるるくるをふ
ちるべーこくまて又よるるとふ言
ハ地作するおどくハをまりゆるまあ

人 坊 行 バカリ サウ
のどもハ がくるあり紀をのくくてよくさる
まどれくをくすれバふうを
アル ニジキ
くちいづるどふ がくるひのるれるるをを
立 出 サヘ 案 外 乙
みるくを。 丙
るるるおどくさてもいるうし
サウイフテモ
るるちごられおよくなるんかのくハ
兒 藤 糸
まるおけくるのなるどくんるもんざやと
朝 暮
ふるるるくるたきあるうちあ作るふ。
惟 光 成 よびいどくれど
間
きどどくるやどて少るふよきる
スグニ
おくまくるるはどいまあんくまるるよ。
地作都のはまる
まれ形あまくど
おくまくるるはどいまあんくまるるよ。
おどくれなどくさあるふ屋れをとなるあど
スグニ サンゴヤウス 拙 僧 実名ヲイフベキ處ヘ

をてハかりしの淺ゐるあふいとう
うれてしく　新こハくぶうれてよ
ゆてゆよハあしぞせんうこあくか
うくゆをいへ　潮かくまきのゆせ
ゆをうれくよひてせはをまひを
をとあをてしく
まのはかりち　玉ゆ和といあどく
詠ひのはかりゆあれまのよハいる
十よ日　拾よのゆまあり音ゆ
べしトの十よ年まやあり仕ゆ
ぬんとあゆはゆべし
かりやうあるくのうく
細効験あしバ子細あるまじをを
万一験あしバ左の威徳もいうどを
うよ方よまのびうをとをもほの
用をほをさうびあるく
しびあるよりハ
釈験ゆとりをのあるくよりハ
今ゆあるくも　釈ゆんとりを
ゆあゆはしく
すゆをちほゆをりうく
釈ほ氏をの隣をあをを中て即刻
ほゆ和ほ氏をのうくゆうまうる
こを当然の礼あり

このちふさあり仕ゆをとハちうしめちゆうし。
まをびさせゆをゆをれちしくをひをくてちん。
草れはかりもこの坊ふてまうけ仕ゆべけ
まいとたいるたとゆ仕へういぬる十よ日
のゆどよのりゆそやをまるうしひ仕ゆをびし
かをゆりて生へうう仕をびゆくのをへ
ゆをうりをいをゆをうよをゆをうまでかう
やうあるくのゆをしをぬ時ゆちをな
うれゆををも生ゆあるよりハいをほうう
をひをくゆ仕をみてをんいうをのび仕りをゆ。
今をあるうもゆをのうまをうゆするゆりち仕ゆ

うゆしをはあををゆ
釈仕ゆをゆうしく和ををゆ
をゆをもををしくをれをくをれ
をあをりかゆしくやをををくう
をほ氏のをゆうをう
こをりをゆをの　釈梵をのりれ
をゆをりをうをりをを
ゆをりをはをりをを
釈ををもりをををを　細源ををはゆをを
ゆをりをりををををを
ゆををををををををを
まををををををををを　玉ほ氏ををまを
ををををををををを　孟をの紫ほれをまを
の附をの世をのをををほ氏をを
ををををををををを　釈ゆを上を
ををををををををを
釈山をををををを同ゆ本ををを
ををををを梯をををををを
作ををををををををを
ををををををををを

○ををををを

まををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを

やうれいとぶらひとり

釈 芝水の上に善火をとり燈籠
まも火をとり〜〜ろく上ふ火くいへ
るあるよ下ニハとぶそう
そ〜ぶ沉りの 新 式よ此香の法あり
梅檀あど名ある多伽いふべ
天の匂ひなり 湖 沉のなきーめ
ふ伽衣の匂ひく 釈 ちひ風と
うーろうろふ風をいあど衣者を
ろ〜ハ伽衣ーとめすくーこ沉りの香の
あ香ーこうふ沉よおろーこを特でてへ
ひときこ香さて沉氏天のとろハ
名香ふもまろうて宝ありとく
ふどうひ 釈 ふどうひとハつまく
ハふ沉れどと重さまろ〜〜
よのつとうろ沉法拘尼ろ〜
細 沉よ沉まろせやまろ〜〜ろ〜
すべて伽ハ俗よ対てハ必甘者の
法理を演説まるを礼儀とふべ〜
釈 礼儀までもあ〜ぶ〜〜〜〜でふ
此の者れあ〜り〜〜
白ど法つ〜めど 圓 沉ゆろ平
芝者のすをあ〜

なーーーぶ沉もちろ沉ーーー

釈 侍従ことのかみ出羽ぶぜんのかみとて尼になりて尼
ぜのあまと侍りしこと
侍従ことのかみ　釈 はいかいの
いかの国をえて侍べ
ものあてるのいまハ　釈 此語おもし
ちかつ　源氏ものがたり紫尼ぜの子
とハ侍りしかれど実ハ
ぐうきもがおのてふいひ侍
むすめ　ぐひとう
湖 侍従ハ世ゑのすけ
で尼ぜのむすめ世ゑの母ぜのを
こゝへのぼり
すぐ侍りあるバ　湖 去年の九
月ありしに
いろいろ人のもとゞまること　釈 いろ
いろ人のもとゞまること
なきものびくらしひとり
所柄ゆゑ　ぐくしくこの世ゑ
おもしろいもべ
かりのゆめ　釈 長生殿の
本ものゆめ
ものがたりの
ものがたりの
ものがたりの

背向尼ニテリタルヲ
ぜ侍りしかの
よりかく京ふるもまうでゝ
(和俗)
こゝりて　来リ住
うれしむすめ
ぜきこ
キラシイ
なりぬ
ゆゑ侍
ぬ侍
ぬ侍
ぬ

ゆくへのと体言より下ハ十ニ・十カ
ナニどヒ等ど擬してそのへう
そでめすのこゝろみ　釈　此女ハ
めなれぬ事ぶこゝろの子にいつさて
をそふうつゝゆくへの
国　ゆくへハ侍従の御ことゝれまて
釈　をきこゝろるのゆくまとゝるさて
うちいとゝ物ゝるをゝるまバひまま
のゝゆまくふかゝさ已所のゝをゝひ
物のくをゝゝ女由ふ指也ゝさて
なくゝゝ侍りしわゝくゝて
釈　此の女上ハ[illegible]
うふ女子ニ人ゝゝ[illegible]
侍りしゝゝ[illegible]
てゝゝてよつけても　釈　その女子の
ゝよつけてもゝ物ゝひハ尼君のゝ
ようゝひのまゝよ　潮　尼ゝの老のよ
ゝひのまゝよひなげうゝゝ
されどゝ　風　ちふそのまゝ
ゝゝと物ゝ一会をゝとゝゝふ
ていゝゝ浦ゝゝゝ
あゆ紀ゝゝふれど　風　侍従ハ
ゆふくゝゝゝふれども
ゝひゝゝ物ゝ

をゝゝ物ゝてゝんぞやとおもゝ
あゝまゝて物ゝゝゝれゝゝまハゝゝ
うゝみもゝゝたゝゝゝゝをゝみゝうゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

末をとりてやはきてゝ物をとい
たんぶゝ語りさゞめ
えうもやとうぶ 釈 あわいや
くやとうぶもえうゝひ
いあとえりゝ
きるの行るとうあん

玉補 ひとりの行のひく時刻をいま
あゝぶ行ふ初夜のつゝあくとき
さゞりさて八次の間と重複せり
んらもやまゝ 釈 瘧後あれゝ
御のおゝくも

玉補 よゝくとうよ用あゝれ八必
とうみを寝まるあゝ

釈 夜あ行ゝくゝえて八御をおゝ
ゝ八御の出るせれてゝうゝたう
法むうれバいゝとうみ八遊学を
出まきるゝてひゝきのゝく

補 細川方の
のみゝ絶るゝ
を用ゝうむゝ 釈 僧侶の法師ふ
るゝ山寺れをゝのゝゝ御のゝと
めゝゝ

きゝゝあゝ人も 釈 ゝあゝもゝゝる
人もいゝゝゝ絶ゝゝ八絶ゝゝあゝゝ

めゝゝゝゝふゝゝゝゝ堂ゝゝ行ゝゝ法ゝゝあん。
初夜 やいゝゝ末 ゝゝゝゝ勤ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ侍ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ(アミダ堂)ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

の中でこゝろひとつだに入れ給ふ氏の迷きをふやうにいとれるハ
ものゝ人を四生ふの網ときあつていとれるもいぶかもの
か網をあれてハけあれ物ぐ世とも
もゝく一人の女房とんるべ
行けの此ものゝべハ 同 從真人於真
永不聞佛名 法華經
新 此へるゝて是佛ゝ尼ゝ
バ所よつけてのゝ 釈 此中さ
る女房を仏のものゝべよとゝ
佛ハ真途に入てもゝ迷ゝ
ゝ仏のものゝべ
を所ゝ耳とゝ
玉 此所ゝ尼ゝ
ものゝべよゝ

ゝ
ゝ
ゝ

ぜんよりぜんぜんいづれも神の
ようをもわがせうるまでと上のおん
よりひめの神とあるふゆうしたぶき
しるるるうふるふ[illegible]ひめのことけの
ゆふんぜんいづれるおんいづれ
まさるというるを考へれしるハ
数位あり只今ハあるべき
人づてゐる由せうてこハ

秋 人待る時ハいかさいひもち
らんぜんもあるハばとうのうとく
ひぐらしやのうるあん

秋 泥濘ハいでひぐらしとあるを
ちうるとしちうるをバ今補て
いるのてゆうしのゆをゆひぐらん
ゆうるあんとのうしひぐらしいよ
ハまぐ幼きんのゆをとかくのうハ
必ずひぐあるうるあんとうるさふ
てひぐらしハいるるし四位とぐう
ちうるもうもて

潮 尼君の位てゆものうまうハばで
源氏のつ尼あるうるんとゆ姫て
あるのゆたく

うちつけ小 潮 初対面ふ後ぐき
やうるゆのつでおれぐもとく

ぜうしたけうそひよ。ぜうのをとハいくんぜん
とのうきんぐ。源ノ 女房たち
ゆゆ。ぐふ尼君ゆ イカサマ
まあやうにのゆハうぐをあ。とくゆぐ
よりうるうり。源ノ ソツビ
ぎれぬぐ。ぜうのうるをうるうと
ゆうねぐ。ぜうのうるをうるうと
きうぐ。ぜうのうるをうるうと
うちいで。イヒタシ
ぜいぐふ。カウホドニ
ぜくハいぐ。息ヒ侍ノ

ぜうしたけうそひよ。ぜうのをとハいくんぜん
とのうきんぐ。源ノ 女房たち
ゆゆ。ぐふ尼君ゆ イカサマ
まあやうにのゆハうぐをあ。とくゆぐ
よりうるうり。源ノ ソツビ
ぎれぬぐ。ぜうのうるをうるうと
ゆうねぐ。ぜうのうるをうるうと
きうぐ。ぜうのうるをうるうと
うちいで。イヒタシ
ぜいぐふ。カウホドニ
ぜくハいぐ。息ヒ侍ノ

おくかくしう 玉 尼君のさまれ
さぐうげあるようまれて源氏君
のおぐしをバとゆゆもそいひか
ゆらぬと
あさくハいぐ 新 ぐひよゆゆ
のけいぐあぐくかくさぐのゆも又
おゆぐぐかくゆ和歌ゆゆゆもぐ
仏のけうぐあんとうぐバ聞くく
いぐぐぐひけんとく
ナぐぐひさうんけうそうよ
潮 師 ほを世のけ母れくうゆ
おりゆ あせとく 秋 ゆ小袖
の裏あぐ入る脇の浪ちゆう
同 さまに 細 今ぜを上も母よ
そやくくあぐまるひくゆゆまる
ハ年と同ぐぐひあるぐ
かくくうもあぐくてあん

秋 かくをうもあくてゆぐさりを
くゆのつのでんぐぐされんぐをも脇
らぐ行ゆうくく細ふゆ和
よゆゆくぐ。とあぐぐ行ゆハうち
ゆゆうぬるのめまで係りうるぐ
さぐ年ゆゆ。ぐ行ひすとあ
いうる格とうるぐぐゆ年ゆうくく

さゆをを。かのをたうひよくんけうもりふ。ゆぐ
亡
あいてんや。姫君ノ
成 某モ
まぐうるぐ。桐壺ノ更衣ノ
ぐ。ゆゆ。ぐうゆ
後
くそね位ぐ。紫ノ
浮
ひよなくせ位くといとゆんゆ。ぐきをかれ
類 イナビ ウサ
をゆもあゆ。ぐ
ヒぐぐ。ぐうゆ。ぐ出位ゆる。とゆくうくバ。ぐ
尼君ノ
うゆ。ぐうゆ。ぐ
イヒタシ
らめひ。ぐ。ぐ位ぐ。ぐ
ソコナヒ
シウ
尼君ノ自身ノ

紫上

ほどまくしぼるさるもいかるなれ
そまでぞそえんうけのうちとどめられざるに
とのさまふへれおびつるしばらけたる
もの成。形をうわりてぞひたく
よるさはこそわるんのびをぬぎぜよとやし
まつぐいとまげあたしをはもちでのふ
とおびてぶとまるはいくもあり。俗訓
わたしぬきだよかうゆしそめ作りぬきば。
いかもあのりうあんどておしてはひつ。
ひつたぐらたなふそれば法華三昧おこあ

悲皆

留

悼

サウトモ

答

俗訓

ツニ

別

似氣

俗訓

ヤ、ヨ

〔羅風〕

きしめひぞある

釈 うきしきのおぐしをそ
まることもなくべくよい
でひぐとやまうあんとを歴
しありぐるもく

釈 屋ををまのりさくくく
かくあるくなるかさて生ずを
いるるひるたぐまて 釈 涙をなかさ
ふおぐるもるくて

細 たくふよう生前を紀伝の物をと
ぞをくあげさでうで

釈 ふ様くをあ一あばともく
とりまくるこあくあるのたぐ成

釈 ゆさぶをひるはのつれ
さまふをふくそのなぎーのたも
あぬともゆくてえのくとのさと
いとあげまたるを

釈 生をのゆくていりせのくう
ひの仏をあたをまでのくのよ
とおげてくるゆくふたをーれ
さあるう
ゆくそめ作りぬきば 新 いとで思
ひよりもめくうちいぞくはゆふひ
作くえあめくれりきとく

法華

様

下風

俗訓

分

俗訓

耳馴

イモ

ドコラトモナク

囀

イロ

敷

錦

イロ

イヨ

惱

○えむくさに

寂 よふとふて
ものくるる屏風のあををもくり
あけくとけるそ尾あるまば屏風を
わくさそのくく源月師説よ惟ふ
あををくそのえとけるはけく
法華三昧梵語也此云正受又名
正定法華懺法智者大師南嶽
所行法門也 花 止観の四種三
昧あくいるもの常行常坐半行半坐
非行非坐の四種法華懺法半行
半坐の三昧懺法天台大師或説
道式つくりたくの六時の六根の罪を
懺悔する法門く

玉 ゆうせんぎうの
あををゆて煩悩の垢をあるうち
をとしたくをあて感涙をあよ
あををくををゆうう

新 さくくふう
つけくとのふくくさてあはは流のる
あををゆてくつけよ神ぬしくふ
とあをくでとあれてをむあはもあ
えあはみくをくうあや作ん
くくう

釈 さくをの悦

堂

懺

法

下風

俗訓

分

俗訓

耳馴

イモ

ドコラトモナク

囀

イロ

敷

錦

イロ

イヨ

惱

堂のをんだうれてる。山おろしよつたく
ゆくくる。ふとくく。滝のをたにひぐきあひをも。
ゆくくふみふれろーよ春さをくおくぐ
ありのおくれ。
ばる神ありしくる山のふすやれ
くくるぎやはをる。みあれ作りおくも
やとゆくそのふぬゆくをくいくくみくて。
山のをるくもくくとなくはんだりはひ
くくりあるあるをあるくくくくくよ
ちくのををのををくいろくくよ
生くくずみくくくくく

新釈のごとにあらずとも侍るべし
さてさてこれらの人々はいかなる人にか
縁侍るなるべきなる世なる句は何
つるにをとりよりは仏の御あをえ
くるふもあるべし新釈をもとにさるとは
いかれるる侍はひがごとに侍るのこと
あるこしは如御ふり
あけぬくやいそ〳〵 釈 春の
くさいとめでたしと四位はさもぐの
詩をどりはてれどもこそで用ゆ
作者のこのよの詩をば侍るれぬは
しあるざめまでどをまてとうに
あてこそあればいとづくし
まざまさとそのあ 釈 こまは伊氏
君のあるまばまぎれてぬぬを
あるにをぬーれるとも
うぐにもえぬれど 潮師 さには光
ぐまりて空のあるもまるでぬと
いひーいそ尾
ごーん 河 護身 潮師 賀持
をにひぬあ
玉 ひぬあるはよのつもれさるの人の
あるとはるまるるーー調まのに
るるいあるるにるぐ

まもまぎれてぬぬひぬ聖をうぐにもえ
せ稀どとうーしてぬ護身んまのーせのふれ
るるーーなのいとるすにぬあるもおまふ
ぐーづきてだらふよるるるぬはむ陀羅尼人のくく
まのりてぬるるーるるるびぬ迦楼羅
ぬるるーるるる

さんぜんせかいのうへ
うどんげのはな　河　紫優曇華、
金輪王出世瑞也故号霊瑞花人
寿八万歳時節金輪王遶四州
共時海水半減すふとして此花
出現すると也是を光源氏を待え
さるふるのたとへ詞ふ附ありて
一ちゃくに冥くあるも法華の
久遠時一現のかく　新　下ノ句　法華
法華さんまを行ふ者めつらはし
うりくるといふ心　歌　華を
ぐ者と出るかはを光源氏ふるもちん
さめ中源氏をぐ者ん心法華行を
ちく者法とつる新えみ出ぎて人即
こうふ所ふるをいくの〳〵
附ありて　玉　金光明経讃
仏品に希有希有　有仏出世如優
曇華特一現耳この文をいくく
おくのこゝ　歌　おくのはさこあ
さる松の扉を希にあけてちぎえぬ
花の紅をこうといひてちぎえぬ
ゆふうどんげをふくめて法氏天
ようこうこうる花のたといあ仏仏
光ちう　風　おそむかのこふもま

やく山の松れとぶそ後まきふあけくまぎ
ぬふめのうほ成みこうれとうちあたてんなる。
ひぐまに法まありにぐこうてまつる。今ん法ひて。
仏郎法　聖徳太子　イあぐこうたいのこうちうの法へ
まこうる。金剛子　イもの珠数　百済　装束　のさうぐれ。むのさうぐく
ちこうる。やぐてこのくふよりへまこうるこれ　宮
すぐこいこうめいこうるを。透袋　瑠璃　五葉松　其国　ふいまこて。紫
の枝に法こうぐこうれたぐどもふ。法く　壺
すりぐこいまこく。花さこうぐこつけく。新
薬
よつけこうる法れこうあぐこも。さげなり法ふ。
花ひぐまこうちぐこん。讀捧　送
聖

うぐびとあまぐ松の扉をまれこ
あけてこ云仏花こうあこうる仏と
いふ花のこつく仏ちこうちうは
ふぐこもうつくこきこうく云
うちこうる花て　湖　慈悲ふぐべ
どこちるこんまひく
玉　ちるこうく切てんぐこ花ふひて
ハこぐ仏法のそれをんこうるこの〳〵
ふの寿花法流の法ふこぐすあ
明　独鈷ハ菩提心の表こ　湖師　独
鈷ハ行人の者仏ふつあこまこう
ふぐのみよくふもなるく
さこここく太このこ
花　百済國より金剛子のこうる
こハ元興寺資財帳第九云多
迦子金剛子此等百済國所献也云々
仏一聖徳太子の法殺のこハまぐ
花出仏ぐさもあこぬぐより
きこうるこぐこうふいふあこて
花のこ　秋　一本ぐこくこう
とあこもこうこぐいこる天二の補
陀落山より仏ふこうるこいぐま
ここもこぐ得ぐきれのこふ
いこるのここんてあぐ

のふせよこけれぐもさぐこふこうこハ
ここうこまぐこうこれこぐつまぐこる
仏こきこのぐこもたこひ法ぐ法ぐこていぐ
こうこちこよ仏ふいこうこのここ
こ中ま法ぐねぐここ人ぐ仏こもこぐ今ハ
ぐここれこ。こ法ぐここ法四
ここまここここここここここここここ
ぐこ仏ぐここここここここここここ
なここぐここここここここここここ
ちひここここここここここここここ
ここここここここここここここここ
ここここここここここここここここ

ハ[illegible]みれ[illegible]ちぞ[illegible]づ[illegible]ふぱ[illegible]。
尼君
まく[illegible]とも[illegible]や花の[illegible]ふ[illegible]ちうは[illegible]ちたとう[illegible]す
ある[illegible]の[illegible]き[illegible]を[illegible]ん[illegible]とよ[illegible]あるて[illegible]の
いとあて[illegible]ある[illegible]ぱ[illegible]ちすて[illegible]ふ[illegible]ぱ東ふ
上ヒン　ツクロハズ　ユエ　手
ち[illegible]ぐ[illegible]ぱ[illegible]ふ[illegible]ぱ[illegible]ぱ[illegible]ぱ

出あつてあい上の所れあ人あつ夫
あつまと悔こうは法くんとうじ
とうくの寺れあつうや

河 可津良支乃天良乃天良乃末江名
留也止与良乃天良能尓之奈
留也江乃波井尓之良太万之
川久也末之良太末志津久也
於之止々於之止々下琴催馬楽

歌 このあつハそ仁天ゆこの山崎の童謡
あつそ作るふふのまつこと豊浦寺
ハムハあまつ一くれ寺のの作作さ
うつふごこふ所あつまハ墨さうえ
のこあハ榎葉井く名あつ

玉 うのこ軒端のかあつふ添あつ
人うつ作くあつ 風 れむく小系
こるつもあ数あれ後上人あれ
ぐも作のはああてハけ作こうく
いこうあつ

歌 うつくきく
のあつあこくてもく数ふれある
さもかいつ作のあつある称く
まこのひちつれあく作月

潮 いつも出作ふひちつれあちて
人あつべ一
さくの作あつあう畑そも作月
あつべし

琴 風流人 自 羽 手 添河 堪 氣 僧 イダフ ザンネン イまだ 未 ヤ、モウ 宿縁

あつ世ふ作のあ作。作歌きんとうづ
うつあてあつてこれこぶはてきつあて
ぐこ作のぐくハ山のあもはぐつ作んと
きちよやこんだみぐつちいとうくこれ
あをとやこのぐくうやくこれあして。
うしあちあひぬおこぐくちをとやうひか
きは作とこくもの源をあこあつはま
てうちつぬまあいこる居まくちあどやぐ
けくふかくこんのはきさ海をんざうつまハ。
この世れあのこれあれぐくうびとやこあつう。
作歌をとやおこれなふの作こてかこはきこ

ネンゴロ 内 イミジキ

○そわむくさた

河 ぐくハ山のあつも 河 瓠巴鼓琴瑟鳥舞而鳴魚躍而遊矣 列子

潮 師 此山の人ハ作作作作こ目作
きくんをこうあく
むつうこれのかれ 花 上の作歌れ
ふこれ光源氏をハ作ひを義ふさと
くく輪王の出世ようをこうあふ式
詞ハあつく 玉 かを宝園をやく
いひをハふうしくのあくひをく
作山のあふぐくいもりくこれま
ぐくあつ

かのくれ作ます 択 上ふかのすだ
ちひよくんはくこうくはびあそ
んやとけこ豚くんをつくべ一
ひくあくびもこう

評 此ハ光源氏ふさ作あて
ちひこれあつをくこ成れ物くこ後の伏
物くこうさでひこあのの作の作
半も作ハふこいぐ羽あくこと
ふあをあこうくをつけて並べさ
すて作歌の逆物れるあちこハ
作後のあひふてくこうる文あるあ中ふ
みのづくくまあをこれ伏線をのくき
きてうこう考へくこ味のこ

なづくこ。
ぬつくこ作日のかこれまのせふは
ぬのこひつ
のこひつ
人くれと
きくうこ
よあつて
づこくこ
ひいあ
イを
あふ
作あ

イヤ サクロシ 押 目 カノ 幼 ウツクシキ 源 父ミヤ 荒ちち羽 拭 雛 遊 繪 畫 浄 衣 着 先 禁中 寺 コノゴロ 衰

そのやうにとおぼしめしたりけれども
あまりとうの事なるのどとそせのふくそ
そうしのうへざ。ひのぎわなどもあるべきの
ようてあるまゝおこるひのらうハつりうく。
おもひかまつりめされぬるまゝとふ
のどやうに一二日うちやすこそとてやどて
出おはしうたうまつりんとやまうへバさしも
おぼしさまどひらされてまうでのふどぎなま

詞 先の字めでたし
中じとちがめさう
五 おのゝ上の字の訳を所望
しておどろかるゝ事也とゝ何ハ
ゆゑとそうるいまゝしきふ
もうるう
あざうり 細 七高山阿闍梨
近江國 比叡山比良山 美濃國
伊吹山 山城國 愛宕山 摂津國
神峯寺 大和國 金峯山 葛城山
毎年給料五十斛 春秋各四十九日
於件山修薬師悔過祈天下五
穀也 養和三年定
いぐとゝひそぐうて
湖 ゆのゆびれたるゝよ大ぎの
おそさんうハいどぎとを寄りひ
てとく
のどやうに 細 大度ぎ方ゝ該ひ
さう もおぼしさめど
釈 上下の葵上元信の孫
ゝぶゝハひるゝうて
底 ゆをバゆるのせうて大度ハ
葵のうゝふのうゝ車ハおく
くハさうく

さうぶふゝぶうく
湖師 葵ハゆのうよりねども大
度の御ゝうハゝすぶふゝぶく
いゝゆゝくゝひうゝ
ものくひめえ 狭 画ゝうれる
御度ぶゝぶゝの中ある姫君をゝ
さう又ハ作り絵の人形とゝゆゝさう
さゝうゝゝ絵ゝるとゝゆゝおし
うゝゆゝぬうゝぶうゝふうゝれるゝゆゝ
とゝぶゝけてゝゆゝひうゝ
ゝゆゝくゝもゝゆゝうゝ
玉 年のうゝさゝうゝゝゝゝ入てとゝゆゝ
甲御氏ゝの御ゝさゝてゝゝうゝゝゝ
ゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

釈 小接尾のごとくあづかれども[illegible]

[illegible]

[illegible]

ようやいのちぐよ

[餘] 捨遺集恋一よろづ人ちぐいろ
みてもぐーろすもんいのもぐふ
あーばりやのいろもてそもも
古今集離別よみ人しらぐそ えぐそ
らぬ今ろろよ命あーばられや
ろすろくやとぬと

釈 存の古今の詞孟津抄釈中も
ぞ〜れさうろふろあべし四位
の二ふハひぐとちろと修飾よ
いるぐしさてこの元ようや
命ぐふあーばあやろすろ〜人や
ろぬといふ〜をつひ〜ハひ身
まえうみをとんといふさと
ふろも

釈 ふと ハ形容の辞

釈 かくりひてばや上と
きろむハ例の文法

いひようぐ

釈 似氣ふきと
ろ〜ろるぐころとろろあればたひ
てハいひようぐ

兵部卿のふハろく

釈 あてよ
ふまあく八上ふそもふやろあろ
やひやろるハ化やろうて乾
らきろ四段ハまぐろ〜ハき流

とうせ成おもわ〜みぐそ〜ふおほう。
かのわろそれおひいぐんほどの。行ゆ〜き
をぞ。似氣あいちぐ〜ぞ。ぞ〜ぞ。
いひようぐ〜ぞ。ぞたこ〜ふもみそろ。いふうまて。
きぐんやそてくむへとりておそ〜きのふ
ぐさんもみん。ぞ紅ろのふおぞいとあて
よなまあいふ〜まぐど。よほひやうたなどと
ろ〜ぬを。いろぐでかのひとぐ〜ふおぐえろひ
ぞ〜む。ひろ〜まきぞ〜ふまぐべるや。おど
おもんぞ。ゆ〜ぞうひとむまふ〜きてぞいうぐでと
ぬろ〜おもろぐぞ。ゆろぐそのロはふこちまぐ。

トヤカクヤ
生出
ウチ
ヤハリ
尼君たち
モットモ
ドウコレラヘテ
迎取
上ヒン
艶
旗
イヨヘン
似
ドウシテ
后腹
アラン
行縁
翌
イヨと

いぐでかのひとぐ〜ふ

[王補] 年のまろそよ小樟小路
らんとあろ年をよりとぞ〜ぞ〜ろ
ハいぐで

釈 かの一族とハ花薫の
一族とりふ代まハりせくうけ〜ろ
ひ〜ろまきいぐ〜〜とハ長沙ろ〜ふ
の出を寄おやろ年二花薫と
長沙ろと同ど左の孫ふまれまよ
そ〜ろ〜ろあまぐさてぞ上の花
薫よ似ぞ〜まろんとのそと
ゆ〜ろいとむつまぐ〜ぞよ

[万] 紫式部ハ花薫の出産女ろてぞハ
〜ふせぐそのゆろむつまぐ
と花薫ふゆろ西ふき何く
いぐでうと

釈 いぐでうとく
らんのそと。うぐ作ろるろ〜ちぐ
ろてそろるまてろ〜

釈 ぞ〜ぞ紅ぞ上のろをとぐあぞう
とろてゆてそれてろ〜く
ぞひのろるさ海そも

[王] 四段ふそ〜ろそあんぞまろ
ぞふようあをそ〜ぞとのとと
いろハぐろ〜ろそまんのトふ
のろぞ紅ろぞひぞるといふさを

○おわりまた

へう。侍ふもほのぞ〜ろ〜ろべ〜。あは
うへのはかてそろるまきりしはそ〜きれ。
作〜まきさに。ぞひまろるさはをも。ぞろあろ
ぞ〜ぞ作〜ぐ〜なゆまをあんぐ〜ろう
ぞゆるゆろくも。おべろ〜ぬんぐ〜のろぐを。
作流ぐまろ〜ぐ〜ふうれ〜ろなどう。
本ぞまちひさ〜くひさむすびく。
のろぐろ〜ぞをもそるまぐ〜ぐ〜ぐ
うろ流めろ〜ぐ〜ぞよのそれ流と
ものまそ〜ぐ〜ぞ〜ぞ〜ぞ

ふくあらまでふてそれ九文みを
をかゝをといふさハあゝばう
ゆかるゝそもといのをそのさ示ハ
あゝばかへうまる何あるをや
おもうげハ　釈　上句ぞゝの
面影のあるかをまそれぬさをて
すまをゝ世をとのおもうげのすく
略　まんのあるゝどをゞ出様のと
ゆとめてゝ和をとゆのゝれ才示
おりて物りうげのゝをてゞとゝ
よのゝれ風も　河　おもゞをれをき
てをゝ見つる梅のゝをゝれもの風れ
うゝゝめゝさに　花　無元良執王
おつゝみのゝ入る　花　ゝの梅ゝゝつみ
みをゝをゝをゞゝのゝゝゝいるおゝつ
ゝゝゝつゝみみハゝ海をゝもんを
ゝゝゝたゝみをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
嫁要記ゝ見ゝゝゝゝゝ
さゞまゞゝゝゝ　釈　定（サダ）をゝゝとハ
よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ年のゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めもゝゝゝゝ　釈　見（ミ）も文（アヤ）もゝゝ
ゝをゝゝゝゝ文色（アヤ）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をめゝゝゝゝゝ

けゞすゞゝる（トシフケ）はめゞもゝハゝゝもゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝみゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よんをとむるごとくそうかう
んとあり　釈　此院あるじ
弄花の小指をぶふぶふのうへ
をのくようあるやうよ治せれる
ハもろーさてそ次あるうしろめこう
といふ詞も用あるをや
いくぐうーつめこう
玉　さやうのさうあるにはかまてハ
世よをまうせなんをハいよく
うーつめこーとくいくどハ保氏
をのあふ教のまれ風もうーろ
めこくあんとををうけていこう
お納をのめたくいつくあべー
評　上のこのすみのあるお納をの
めのとびくいつるハとこそさて
あををおしまへる附物まへる人ハ
名をいくびこーそてお納ををた
づくうこーへとあるゆくめの
教の人もお納をあるべーしあう
よあふをせこる事のこみひ
ちびあぢこひあり
さもうらあくまあさ
釈　いづくのくれくまてもに保氏の
をたんの物るをいくありこまハ

まうとゆくーうるん坐神もくおげくる。（ケシカラズ）尼君僧都ナドン
はつふくあもいとねんごなよかいのひてらの（久行）書
はそるのちづきなんあふ見まへまりた（書）
とくぎこいのみるるは。（故）
あこーふいたくもんをいぬよなぬ（保）
山の井れうもをきるるんはくー。（影憑）（離）
くみてめてくーやーとの山のれ涙き（尼君）
なぐくやうげ紙見をてなき。惟光もあるで（イフ）
ここをゆゆ。このゆづーひまふまよろし（尼君）
くーものだするーて。あのとちよるうう（殿）（カヘリ）
なひてをんゆ。さすべれ。まるをんめと（マチドホ）

限をそうまをそる所ををく
いそびみびみうーけそひを
玉補　此下ふとり。花るべー
くくーくおりやーのさまをさを
玉補　くをーくハおりりんハづうぬ
下のうるへかくー
ハをくるうらさ　河　故書　されふ
いづーくはげてうぬてー字
づくをくうあり
まこのかあるーよハ　湖　おあもは
ふちひさくー花びをくるほんの
あくうふうく
河　おさうふうびさんあるふの井れ
ぬくんをうありのハ　古今序
拾　万葉十六ハ下句あされをを
をおりくあくー
花　されのあるふうをぬをくよる
ありているさふをとうふ作う
古今序の詞をひよををるー
釈　山の井の水といひかけること
はれおのーー　紫式部の日記ぬ
よをあむーーいるふひぬーー
ふをあるかりてをる

なーうおあわれて」　蜻蛉の家あやまちふ（疾悩）
来あるて。まで（御里）ぬうへのおげつれ（帝）
ぬりなぬにはをーふ作ををくーこと。（デモ）（ハセバ）
ありうんなりあぬーかるをわること。
んをあくぬれまどひくいづくまもくまう（カレ）
でをそぬ。四ふくもさあをーもひふハつく
づくとおぬんくーてくるまバを命婦を
をあうりさのふいぬ。（命婦）計
責
ありあくくんをるんぬさへう作ーとは（ウチ）（マデ）現
ムリヤリニテ
おげくーあでるびまや。ふもあさまー（キヨウサメ）
うををおげーいづるぬよとあめは物（サヘ）常住（フダン）

くくそめてうく 河 くくそめてくるあさくらきたゆかの井おれ六帳二 釈 初二句ハ引
ものの河をそひくきしとよいくるあり下句ハ小掃のごとくらげハ虫のうげくたぶべきことあるなハ語まてもを車下くくくくとよいあるなくべ
こまくくくも 花 惟光ようまのうてたくへいるべ河ーあるをやきせのふのをやきもあり
あのの屋よ 釈 尼君のまあまきちの方角をの家あのよ
ぎつぎのえうく 花 三月四月の半ばるだ 重 三条の宮くまうでまく
ばくくくくあくくく 釈 ばくくくくあくくくあくくくてのく
ふつあくくくくとふくくくくてくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬをなりさあやまむ
うらぶけんひとつよハ　潮師　源氏
のたまをぬきしのふんあり
ゆめのとぐれ夜ふかぶぐそ
玉　夜と今ぬと二人して今帰ハ
天今帰さうこそふハ夜と今帰と
とぐひとさて程のぐまぐうう
くるといふ今帰一人ぐらくさる
方ふ今帰ハとこびるをいろう
源氏ぐのぐまあるのハ夜くちしば
今帰のこちれるまあるぐふかく
分ていくるあり
うちふハゆのけのまぐれて
訳　市ぬのをれさうるそ市懐
のまとみふうるぐあてう
まぐうう　ぐふ姿ぎりとと
らうまけるくしと地ろ詳そ
うひるくいとちぐまあぐまくいぐ
いとぐあまてよ
泯　者のまふいるく友づりふいうひ
まさるるあり
さまくくある友をうまひて
花　くくへバ源氏のゆの方れ市振ふ
ゆよりでぐあひそ市位よつ世話

よくぬこそ（ツカヌ）
ぐぐまぐぐぐの月まぐそうをさせ
ぐぐわそ今
んひとつまぐぐぐおぐうぐぐぐぐぐ
きちぐ位ゆぐ湯殿ぐのちぐふぐぐぐ
まつて位まのぐぐぐぐぐぐぐ
なりちれぐぐぐぐぐぐ乳母
ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ
あくねばぐぐぐぐぐぐ道
をぐ今帰ハあさまくくとぐぐぐぐ帝
のうぐれまぐぐれくくとみぐぐぐぐ
くまくくるやうあてうくくくくぐ奏

べきさまのぐぐふあくまくる
さてあぐくもうけぬくくくく
訳　あそもくる者をふ姿台の特を
そのくくぐくくくのもあくぐくく
万れ一ぐの位台者の詞あぐてよ
刃　氏市者を相をきれバゆよ三
人あくべし一人ハ天ゆ一人ハ后人
ハたぐあくべくくくくくくくく
その中くくぐひあり
剱　その者をありせそくれば上を
おりてその花まあくくぐ花氏の
ムのくくくんをくゆくくの浪漫の
うつくひのくくも脱月抜のくぐぐ
あくぐ氏天のくくめくあくべく
むくいふぐいふハ邪犯者のくて
訳　ぐぐくくふ左遷のくくそくあぐ
やくふ泊をくれくるハくくくて
くくせあくぐくくくくくくくくと
左遷のくくをくくくくくくくくる
をくや　訳　氏者のくくふ源氏者生
源の獄行れ伏者をそくれくく
くくの相金者の相人の詞と同じ
きゆくくくくやくく毒くくくくく
事のくくふ姿くてよくくくくくく

もさのくくくひくくくくぐあくれくくぎり（イヨク　憐）
あくくぐぐくくくくくくくく

のくまひくぺのうちまへぺうふるものあん。
とぬぐりわうぶこのあれは中きのひ
くぺりーさるやうりやとおぐりーあそせのあよ。
いとぐしくぺみどたとのそ成はくーはえ
まくど。今婦もやうよいとむくつけうとづう
ちさまはうてさーふーぐるべたう事
てぞ酉
いとぐしたはちひのおどろぎりほしずて
ふくーうふあわはひくぺうちあやこぺも
御腰

（懷妊）（合アラン）（合）（カモヘバ）（カソロシク）（メン）（更）（ツイレタ）（絶）（竟）（キヤウ）（藤系）

ふつーうに　細 恠物のさまし
ぐふうるものあく　王 ぐふくハ
事のはそひぐるあるさもぐくよ
こうあーこのく　刃 天子はも愛
事よのくはくーまはとく
はあそびもやうー
花 そもやうー深くあるはれだ
まのびぐこきくーきの
風 ほのそひあるさるあるべし
釈 をうーのはは河原よるべー
今ぱりーひう補ひてそのやを
つぬうーはあ光ぐべー
さはがあるーナびもを　釈 さはい
ふのーあそれある源氏君の法
うくをそひつけのあるべー
出すひーよう　釈 尼君中宮を
ひでーあうーうのあ
あるーーさまふのく　風 いとけ
おはよーのくはるのあるく
あくーふまさる　花 源氏物語玉鬘
月はれんぐーはとふーはおて
あくーーまさる拾をひもすれ
今東宮つのちすく
れのまつく　函 おふ七月よ

（似）（モマタ）（藤系）（壷）（バカリ）（管絃）（ソロク）（オモシロキ）（ジセツ）（ヒマナク）（召）（漏）（出）（カクレ）（ユタラレヌ）（藤系）（尼君）（病）（イのこし）（ト ツ）（御返事）

○そのやうさは

もゝとゝろうあるうちにこの月ばかりよ
まさるはつひよこと事おくさもだあく。
秋のもをつゝぷのんでそておぞた
うふ月のもとゝろに秋ものびるゝ張よ。
からゝじてやひちちえてゝをゝ時あめい
でうちてゝぐ。おもそゝ京八六条京極も
ゝうふくゝ。禁中
きゝちまてゝに。あまてゝゝあの本ぐ行
いとのふゝくゝこぐゝうんてゝる行。きへ
の法とゝふもゝ法ゝあまゝあ惟光ん。故按察使
大納言の家ゝ行ゝひゝゝあれゝゝふ

（モットモ　興　ナニトナシ　ヤウ〳〵ノ　デ　（兩ガ）　ヘン　程遠　荒　ナニトナク　フルビテ　水間　コトノビニキ）

日ぎゝとゝろう　細つのでなゝゝで
日ぎゝとゝいゝもゝゝ
ゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　釈　尼君
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぐふうるふハ　平　ほもあひ
まらねさまるよねがまて
ぢのふるひのへさちあぐら
丙　ほもつまよはかあるうるたと
あがりめせどもいひうのあどよ
いまぐをさふたとてはほんもあ
ゆきばつてまーさるよねのづら
尼公のねりーせのふをもまちし
めさねとく
みぐうごちハつともあくるく
圓　遠俗のすを関ようる尼公の返
そうく　釈　みぐうんちのあやまー
さハいつもあく常のすありれ
バそハともうくも行れ能原のさあよ
あうてかくあくるぶひのへふく
づらう舞あて遠よ云人まぬ
こうと先安後を謝しのあし
ようあたうくいまぐ行て
細　いとげあたく年齢もうさあり
てとふう
うずまんさせのへ　丙　ほの云ひへ
の報ふあーのへとく
祝ひ行うみのねど　細　後まの
さうくともあるべきとく

ぐもぷへーちまんハうーこぷどて南のひ
さーひさ法ろひくいきなるぷいとむつ尼
庇　イ行まどきどぷ　芳詞　ムサクロ
ぐよ行るめきどぷかーこまわをぐたとてあん。
シウ　オ　レ　イ　デモ
やてうあうあうたおまー所よあんとやゆ。
オ　モ　ニ　ガ　ケ　ナ　ク
げふうるほをきいよ生ぐひくねぐさる。
ナルホド　詞
づまよ云ひへうちるぐうぷかひあきさあよ
訪ズ　紫ノ丁
のこめてあさせまふぷ法まれ行てあん。
ハヂラハレ
なやませ法ふまをもぷかくともうけ法
病　悩
ちくさわうるねくつうるさぷねどやまるふ。
尼君詞女房伺
みぐうりぐうちハいつとんあのく行ぷうだ
イる　命
ぷのさあ法ふあうあ行ていとかあげあく
終　アリガタウ

○此三

いくちうくまバ
細　祝のさあ行うまバうくいよ
あるもほのすあのあくくくく
ゆてとうふてよくきるべし
ひたるぐふ　釈　世よくぐう
かくまうをもゆくまふぐきねを
の年あーバうまーかんとのさ
ありかくまうハれをいのとうふを
あうあきうぐひのへんうあ
釈　原氏君の詞ひとうあくぐうあ
旧注ハひぐくくあくぐうあ
あーバかくをくあるたくよすき
すきーたさあとたてなんや
とうあさて
いうあくちぐうハ俗のあ原くいうあ
せのあ原よあーんとをあうう
あーまくーくぐうひすあるもあぐう
あやーくくまでのトウ詞紫
ぬくちん　王　世のくれう
ふいあーじあのせようの国俗ふ
てそくぐ世れふ世のすとうあ尼
ハいみーきひうくとく
かひあるさくちのく

○天ひくさた

生もちよくせまつくたぷくうちゆくさせぬ
ウシアゲヌ
ことのくまもすまれすちぷあくう
分ナ　紫上ノ丁　係　カノ
おもおげーちーかくちぬやう行ぐバく
ロうあたよちひすだ行くくうあびかず
齢　過　必　数
まくさを行へいみーくんびそげよたのく
おくうんぷ祝ぐひ行るたのぷぐふぷひ行へ
置　後生　羈絆
らまぬべ祝ぐどやくまうぷいとちうくれバ。
近　石君詞
ぷぼそげけあるぷあうぷ生ぐくゆくていと
尼君　絶々
くぐーきあたるぐよもぷるくれぷそんぐふ
紫
かくこまうり巳ゆくひうぷたなどあほ
ぐぷ原おくれよきくぷひくくなあう
カスミ　泪

釈おのりてもうひきさいちのく
をるをやあてはこ上のおもをぐぶす
んとのさきまく
よろげかりりもちぬさまふ
玉尼ぞのいくよろろめること
おどをもいくもねげーいまあよ
しのさろう
きこめるをうしも　釈ろぐ
ちに尼ぞよはこ上に移いて尼ぞへ
ろとらひちすをしも伝ろく
はこ上のこのこへ出ぞおふくち
さるにさまをいとよくうつ出
らぞてろう人もをうくおるきぬこ
えこて　釈はこ上の尼上をゆひ
まう何へてとふ何のゆび私の
形よにをるごとしもうびて
いう後よにあーぞ
この寺ゆあし　釈かの山尼
寺ふおしとうもこのはのさこ
いさ尼ーぐをく　釈いさの河
譯注のごとー尼ぞかの伊氏こ
を尼ーぐんちのあさもおぐき
こうこのゆひーをはこ上の中
おびしをろてうこにのまう

浅 うさこうちひ（イヒ）ぞんこともえがーはそぐく
しきさ海をみえ（ミセ）をーんぴいるるちぐうふ。（宿縁）
見をうてやてよりぷおれよろひゆるも。
あゆーにまでこのぞれまをたおぐ行ら
ぬ（フシギナ）などのこ（今上）いこをひく。（又伝河）かひるにこちのこ
伝る後ぐれいをけおうあーをふにひこえ。
いうでうとこの（侍）へだいでやよろびおぐ
きーぬさすにおりこのぐりいうてなぐ
ゆゆるをしもぐうるこよりわこるおこて。（彼方）（来）
（はこ河）うへこてぐこのちふおしは伊氏の君これ
（尼上）ちーこふきぐなどこにはぬとのきをを。

○此四

とうひく今伊氏君の本のくる
ををーをんこてもるをてのさ
ちのさまこ幼さ人のさををとと
よくうつこれさう
人くめころーとうひられば
絵伊の河さこ尼上こ和の人先
人くこうーげようひくるさまをみ
ーとの本ふゆあきねのみゆこ
ぐふいゆうひなの
減尼ぞのはこまのぐこくまこと
ふいこけるにくまうふぐうよく
をーへさてくこうにたよりこ
きいのちひここて　釈いつのの
ぐこくはこ上へのゆみはふこく
いきこうふく
いこけるに　釈上旬はこ上に
一本をゆるくこをびる拾ふを
てものあーこるこ松は伊氏君
こづうのこくへう
玉あーちふあづむはこひゆやむ
をこくこうこふゆぬはぐうびに
ゆてこひなやむこのゆうぐき
るよくこえふにをゆこをこう
えちーぬの四ぐもこぐうこ

○えむーこに

人くいとかこ（シヤウシナ）こうこうひくあふふ（アヤカーシと）
ゆゆいぐ（はこ上河）（イヤサ）
とのひーうばぐーとかこに来きこて（聞行）（イい）
こうぐ原いこをうーときく
行へどくこれこと（メイワクナ）こひればゆぬやう
ゆくゆまあやこるはこぐーひをゆこおに
行ひてかくこうひぬ（実）ぐふいゆうひゆの（原ん）ま
こひやこわこゆいこようをこへてんと（教）
おゆにゆまれ日ゆいこまんやこゆぶ
らひゆこゆふまいのちひこくく。（アクルヒ）
いこけるにこぐのひこをきーしよう（原）

みるに人ごとに　抄　法師入の声
とげ小松さりみるに同じくもも
ゑんとぞいひしに思ひ出ぬ古今
堀河ごでたゐ一小舟ごぞこう
みるに人もやうひとうあん
やごてけるか　みと
釈　此はみをそのまゝ法文のまま
ゆ一いまゝ法文のまゝ人といふ
とゝせのゝ八う一　細　小舟ごぞ
この間ゝ元八小ごぞ物のまゝ
新　この法八病て死んぞるごぞ小八
山寺へまゐりて中ゆて法ゝまゆ小
せゝかめごとに祇園日記ゆ
とて左京ゝ一出るもおやの喪
よゆちかまりゝるゝ行るも
さる鄰とんゆ出ゆ一ゝる人八は
小さとゝるゝや
この世ゆ一ゝでゆ　釈　この世ゆ
ゝごものちゆ世ゝうゆ一ゝんゝを
ごゝいゝとあゝまゝ
んゆいゝまゆゆゝゆ
釈　いゝま
ゆゝのゝゝとゆゝ切ゝゆゝ
人ゆ八ゆゝゝふとごけゝゝゆゝ
ごゝ一ゝごゝゝ人ゆ八友ゝの男

あまにあづむ拾ぞえのゝぬ拾ぞ人ゆ。
蘆間
とゝさゝをさかゝゝ八なゝまゝいゝ
みごうゝをゝげゆれバやごてけるゆゆを
人ゝゆゆゆ。お物てごゆゝゝるごゝ世ゆゝゝ
ゝゆをもすごゝごゝげゆるゝ八ゆゝて。山
（御法事の）（久の月）（文）
でゝゝゆゆゝゆゝゆゝ

[illegible]

十月の朱雀院の行幸のぞ

[illegible]朱雀院は後院く天子脱屣の[illegible]

[illegible]

十月の行幸はいとなのめなるべし

釈 この行幸のことは[illegible]

[illegible]

[illegible]

なるれ。あるづ（軽慢）そ（中）きくまそやまづすれ（交）
そんちどさそだのひぬるもの。よとそあにおびし（過）
あぐきつるもちるきまあいくはるふ。かく（著）（多）
かあげあ（アリガタキ）なぐのはとれさぶはのはん（激）
とるどりやしさせげる（チヨウトノアリゲニナイ）とうまてうおひ（サグリ）（会凶）
ゆへらまあ後きさそりふよはりなづら。
すうとあぐてひあるまるもおゆふ（セツ）（准）
ぐでぱ年よりもうびくなうひゆくまで。（幼）（習）
いとうそうしゆくはるとゆ。あようかう（イる）（保河）
くりうへしゆちるるんのぐ成。はくしみ（シヤウシニ）（カクシ）
ゆんゆ。そのいふひあるさはるきはのおそ（繰返）

きふあうしうおがそはふ。ひちぐうくとた（宿縁殊）
あんんるあぐ（今ガ）ら。ひちまきそるなくんぐく（傳）
ぬ〜でぎそちせぐや。
（保）あとうれうにみるあはかるくもこハ（コレハ）
きちあぐうくふくうはぷぐ。ふ（シンクウイナラン）む
とのるへぐ。ぐふそていとりこそまてて。（お物云詞）（ナルホド）（カソレオホイ）
よるはのんりらぐるの海よるるび（お物云）
うんちぐぐそうはるる。わるるとゆれ（ムリナル）
はるのの。あるきてるよずしつくゆるれのふ。
なぐでこそんぐんとうちずぐはへるを。（モノナレ）（イヒそぐ）（誦）
よまるそてうきくはめくう。ぐはうへをこひ（若）（女房タチ）（紫尼上）（恋）（深）

あげのはしとのもとをいくふそそ
くくくく

おりてしまうてくれ　湖　あまの他
人とうひ敬さでもあるものさ
さぶらうかしこ人と　秋　上ふにあふ
ありて物をもよまでいひ人
なるさバ物にうしく人とハいるる
しかりをつくべし
いざさう　新　いざハ率あ汝ハ
ものを問ひてゆけしてはのうへ
祝ひてしたよ　梁　眼痛のさて眼の
ものきこさてこの又幼児の為
をもとゞけるごとく
さるバて　畑　市陸ぞよいまぐ
かくいかうひろ尼はさまある物を
と乳母のうしろ
ゐとさいれてさぶらうへきバ
畑　上よきぬをひとりのあるべ
ちゐありひくもをひきて髪をき
ぐりうあるべー
いとうてうとひやう
秋　此物語のころの女ハ髪をされ
てあるをきバ行ゆくもえ髪の
めでくれをわめくるとく上ふ
ぜ上の髪ばしをらびくいつう
一孫さんをらくべしとひやうとハ

ぞ。ゆ屋尼人。おうとみのうひてそのおうか。
めのとゝいでおうとうてやゆくうも侍る
乳母　ヤアアレアンヽリナ　ケシカラメコニモ
うしぱすちをのみとん。はふ仏のちう
も侍ゝじあを。とくくうげよとひられバ。
イヒ　メイワクサウニ
保河
さわともかるはなどをいうぶバはうん。あ
ヤハリ
出ぐよりふらあぐれほど後。人ゝて
セケンニハ十イ　年ホドし　竟
ものさまあり。あれふうはまくぐだ
保河　霰　降　荒　凄
よのさあり。いうでかうくさぐれよころ
夜　ドウシテ
がてうてぐうんどうちあいまひて
いわうんをくぐはなどなるまバみうし
泊　格子
まのあうねああ
オロセヨ

きぬの中うてうんぬ乱ホいうり
すぐうしく　玉　うとうく歩ま
ゆうて入よあるぐふ
みあとうて入やうのさあるる
べー修ゆよいすぐるも問ひてま
衣をあぐすぐうひもあるん
さんあり　秋　庇のあれはせうり
母のあうえをぐり入のあるべー
今ハまうでうあぐきく
湖　尼君あるうりのひて後今ハ
保氏ぞはをあるうあるぐなな
うとみのひてとと
やうちうせうあるも　湖　ちふく
づてあるぐやはうをぐやとの
ものひをうけてうえぐはぐさ
あるれあ保のはくまあうひもあ
ゝとと
さうとあるはあるを　湖　師の
はうさうて母はぐさハまはれと
あゝまぐうはうはまく
評　人ぐくあうとぐうをれ侍ゝ
とのぬ人まて侍ゝん
紫　あれ乱あるのあ人とあうてて
小何後ぜんとのさと

を。我　直宿　近　侍　馴　尼君ども　ケシカラズ　居　乳母　涼　肌　アラカヒシウ　ムツタサイウナ　紫
ぬ。ゆ。ぬぐくうあ。ちうさぶう
それよう。とていとあまこがいに法性の内
ぬ。ゆいぐきて入のうバあゝ
ものとはきれく法もくあるあ。めれとうう
ニカ　わうはと出ぐ。あうまう
ゆくさうぐバれ。ねだ。ちなだたつあ
うう。ぬうあ君ハいとおそうしんいうあうん
と　わ　戦　慄
とぐくぬとうたてきはぐつた
ヒ。そぐわはむぬはあはうをぐらうく
ソメツクニツクト　サウ　カハユラシク
わだうくぬうをわうくみてぬとう
はうちもぬうてうはあはちまくどおれ
ヒヨンナゲニ　裏　イヒ

ようちかくてひのひかりいざのへよりとき（保河）（サアオイデヨオモシロイ）
絵などはかくべからずいるおそびあどもとるとふとこと（方言）
ふはたくべきことなのはふるもひのいて
なつりたをぞとるたんちもいとしるも
（著）
おもしろぞはたとうむつうはもいしぞ。
みじつたるとのつ。おひとよ風ふたあるて
（イおかて）（ムシヤクシヤト）（卧）
よぐるかくおもせざるもうべいうしむ
（女房たち）（キ）（ドノヤウニ）
（源）
ぼうつくまつおるのくはようたれどふ
おもしまさはうべとさんきつりぬん
（紫）（ヨカラシサヽヤキ）
のしはうしはめるたいともうさ近ふ。
（キ）（ツカハシサニ）
風をしてはやうるふ。おふうは出はふも。

（紫）
おとはけりがたなりやいとあもれふんなる（保河）
はありさ海をと今はまもてうる時のまもれ
なつうれうべしおまとまおがあはる所
よわるしはまんくのこそいぐ扇ぞ
（カウシテ）（バカリ）（ドウシテ）（オソレ）
しのはざりるとのるまへばあもはむへ
（イ）（お納言あくん河）（父宮）
ゆるどはるふあまどばはは写九日はど
（イのまま）（保河）
てやなのとちひのふなどやもまでるのも
（逆）
きすぢあがくもよくおひのへる
（ベツ〳〵ニ平テ）
もおがくてそうはがたうあいまよ
（我止）（疎）
ゆんなまどあさうぬんぎはさうぬ
（我ソ）
だくあんとそういるぐつうぐちまて
（撫）（顧）

まはまろあ
同じくはうしたがく
（釈）はの年れおをある程あくば
とさやくくと女房かのいのぎき
詞つきぐふまうくべし
あのとは（評）乳母のをひるぶ巳
風ふとはいはやみくるふ
（評）風ふ止て出のふとある音の
まくくん今も程動くぐどし
弟ぐるぐはあやや
（風）とのつれたあくおたるとし
今はまして（釈）かくるんをひての今
ぐまうしてし
明ふまあぐの行る所ふ
（湖）源の程行しすふ二ふ音風へし
いぐ拙おぐしのはざうう
（釈）法年ふふうとあまでくる。
の退ふるれば今はふはりつけ
ぐとあるやはうていくる法はひぐ
てくはのかくてのを若のちで
いぐはは拙程ぐしすはぐるべきとふ
ぬしてくるはおりてきはるさのく
（注）十二月廿
以尾花の中程ふうを成湖くや

○えもむくさ記

出のひぬ。いみづうきてうきてるみを
半ぐ。ヒトヽホリナラヌ
うのぱさ。繋想
しうちひ。サビシウ
とて。のみ。ニアリ
うち。敵
くぐ。ぱ。
原
すぎ。
うう。キノキ、クリゲナ
をいぐ。

こと半ぐ。
あさぐ。ゆ。
細 蘇ぐ門程馬
ぎ。ぐ。ぐ。
愛 ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。

ひろうものふりうて（奮）家のぱそぐんぱそれ
よさびしくなきばんわるしのひてかゝ（河）ふ。
いでらたぞ（チトノヘ）もぞきるたんへのさぞ（幼）ぞ行ん。
なほうてよわるしてなりてんぞおそ行
せたやぞるもあるべめのとぶざ（曹子）（バキ）（セウ）
してさぶるひるん。たてるたんへるど（侍）（マツナ）
あるきぞ。かるもにおそびていとるる（兄弟ノ君クナ）（イツ）（ショ）
しのひあんぞのの。ぱるよびるせ（紫ヲ）
きり行へるふ。かのぱうるぐれぱるぐう（源ノ）（移）
艶えんふきるうる行るきばたる（香ノ）（キメウナ）
深
まわひやはそいとるえてどんぐるげ（香）（衣）（ヲル）（キノドクサウ）

ちぐのぱそれ出月ものあぐとの
くるうて 釈 この出花より巳 ゆ
月ふ父宮のかくるきバ怪きぐき
るもあぐばるあくにいるるもに
かのはるうるが 釈 よそれ人のこそ
ぬハ吳ある名あにあるべ源氏
君美大ねるぐのハてふいるぐく
いるる俗へ
けそハいとあえて 釈 いるぐ紀香ふ
あいせてハはえのいとくるれるを
んぐるーくそひまふさるハ後れか
ふそをいるるくのるあるべー
あるーくさるるすくるくよ
王 よのるぐるもハぬをーをと
いふへるるてとぐるもるくと
いひーをさてくの後ぬさて
あるーくさるるるそ尼をぬそひの
ぬるるようてんぐるーさるぬく
ハるくへもるるてんあにぬと
年ごるもいひくのるるみとの
くるるくる
ぬるし 新 るふさるもるて
人あそるるるもるん狩るあと
のるひーをとくれぐ次の詞も

よみぐいるるりぷ（ヤヘヒガチニ）（イ叶ヘナシ）（年）（フケ）とぐちもあぷくちぐさそだ
行へる人ふそひまへるふよりぬ時るうん
日るるてみのしのへちぐるのせをあや（ナシ）（フシ）
ぎるうるくくるひくぷもんぬくありしを。（継母ノ北方ヘ）
（ギニ）（疎）
かくるをるみーとぬまんぷんぐるう。（ジセツ）（キハドクナ）
あぐるの行へバたふるバぷぼるくるもぷぐれ（おぬぐる河）（チトノヘ）
かるておそるーまるんぷそしあのんぬるじ
（コノマヘデ）
ぬるるんよ。わくるせるぬんそぷくハ行べ
きまとんぬよ。よるえるこひする行るよ。ぬる
（ハウ三）（公宮ヘハ）（底君ヲ）（チヨト）
ぬるさぬるもきるるめるるとそぐふいるるう
（タ）（イルサヘ）
ぬるやをるへまぐぷいとあてたるたるく。
面 痩 貴 美

ゆくえんとのふなのりさしもわたもちぶ。
今はせふあるひとの浦半ハくひぶ。おのきの
きびぶ。おどろくひぶ。ひてぶくるきびぶ
かへりをまつあるぶ。おぼつかなくぶ。
まくだぶ。めもうちあるひくぶ。いとうらびぶ
なしわたひてぶあるぶ。ひとなんちぶ。
くぶ。ぶくらくぶ。おたくぶ。ぶたひぬぶ。おどろ
もなぶ。きめぶくうあたぬのつぶ。ひさあ
の方れあんとおぶどもぶ。おぶ。ちぶ。
きぶ。ぶ。ぶ。

あしねぐ　ゆひさだいうふる　幸もある
ぎだ人をまぐだろう本宮あるく
まあり　すをだるまきんとのさと
ある　べ

あるべ　こそ　万　光をそふるま
べく　ゆの　ぎ　ぐ　ぐ　ぐ

支見加山孚巳衣乃孚巳衣安
ヒ与支ヒ世留こ与ヒ学陸の
女のしゆりけ出ゆどよう西ひ来
さる男ふよみけしるふてなれ
ヒハ家ハ田を作りてて孫き
他ゆハ与紀ヒより男ぐきまね
男ふあぐんありて他男をとる
て西ハまてちと結ひやーゆあん
ゆ山をこそてかりる西枕小来
まをろとよあるくさて今国氏忍
のうひいるハ小ハ式紀陸の花
田をてつくゆてとよあるごく
あぐんハ与紀ヒあぐんありとか
ぐもてうゆ葵上のとみゆも對面
しゆりあくてよくいゆさまてく
ほふ未搭ふのゆとあるハいと拙
とりくこてふよりあをてこく
をさあ紀人をめすこく
玉 久の小ふ日ろて浮ふむん
出さくハ与ヒ出ちろとよの人ふ
いるゑーさくバうくハ出くぬ
さ紀ヒとくこく
車のさくぐくさ与ぐく
湖師 久ふた反ハ笠用の車好こう

ひぐめくかることく人かやとわきうんなどつ
ゆ(瀰)ちくゑ(チキナリ)ハ出ちぐむ(ナニブン)へてんとゆもゆんはは又
ハ出ちびくな手(ナニブン)ゆふ(迎)くるれバきんのゆいふ
をぐとてきつれる(久の月)ぐ(暮)ちるゆどものあり(障)て。
えまゆりこぬを(コレミツ)ゆ(お)ゆくるゆやちどけりこめ
よりうをゆを(紙)ちるはむ(迎)人ゆ(オカヤセ)くのるゆせうう
つまてぐ。公あるもてくくくゆんとくばの
よのぎてふをうを(明日)ちるきちんをぐはふ(イツガシク)ゆ(年来)ぐをてう。
さゆ(侍)ふくくもゆひゆぎまてゆとことずく(離)(侍)(言)(寡)
あよいひくぐ(侍)をきくけへくらちびゆぬひ
いちなゆ(アニマリ)ちゆどちるくれバ。(イひ)(縫)
(ソブリ)(著)(カヘリ)ゆぬ。

見ちた反よゆちくるたきいの女ん。(葵上)
とみゆも(對)きいめん(面)ちるゆのむくう(コメニダウシク)
ゆくゆくゆひくゆあづま(東琴)ゆ後ちぐるて。ゆちち
よはゆをてつくま。といふゆをぐゆハいと
ふまゆきてゆ(ナメキ)ぐ(ハ出)びゆるくゆゆ(惟光)ゆりくれバ。
系くよせく(寄)ゆ(カニ)くけるくるとひゆふちる(観光)くく
ゆんとゆあれぐ(召)くち(系)をくうゆ(ガンネンニ)ゆ(イあぐ)ゆくてゆの文
ふりくゆりゆゆバ。わゆぐとむ(迎)くへいでんもすき(ウハキ)
ずくーくるべーをきゆる人をぬ(盗)ちくいで
寺ちぐとゆ(ラシ)ぐるゆひゆんそのさる(出)よ。ちぐ(イちくさ)(チトリマ)
人ふもくちぐ(不評判)ゆ(禁)てぐ。ゆくくてんとゆ(此方)ぐて。

ぞくとそのまゝ物さ伝れあり
つたりのまへおさせんと惟光のさ
まゝ　釈さあ〳〵とゝふ詞をお
もふ右の流ろ〳〵ゆら細流弄ふ
ぶふそうつくろべきさまと惟光
そふべきれバとある八いづく
おまてこれ　玉　捉てあまこまて
捉よとゝふこゝ
ゆすえありて　釈　女のゆゝとゝふ
さこそ世評のこゝ
人のゆゝぶふこゝ　底　せよと
ゆゝうゆすゆゝの女ゆゝバゆゝふ
むくとゝうゆゝもつねのゆゝれハ
くゝゝゝくゝぞこゝ八年齢のゆつ
くゝゝゝくゝぬをいゝとゝひゝゆゝ
釈　物ゝゝくゝれぬべくハとそたゝ
のゆゝ人の推量もてべくハとゝのさこ
女ゆゝとゝの
釈　上文を結びゝゝ照應ゆめゝ
いとゝゝちよゝゝるゝべゝさゝゝ
潮　ゝゝこハ二ゆゝ院ゝゝゝゆゝ
ゝんゝゝゝ

いでさせたまへ。と申のたまへとおぼしたり。
原文
なんぢ申せ。ことはりなるべきことなれば。
点一本ニテハ
ひとりとやしさせ給へんとてあんどのの方へぞ。
已前
お地ぞ自
なんぢとあらばいかんぞ。
言。
イカバ
いかにせんとてうちわらひて
サゾ シカ シタ
答
みるもいとをかしかりけるを。
笑
原文
うちとけて。あやしきことなりとて。
ヒヤウシ
やがてまぎれぬ。
原文
光
ヒシ
ヒシ
ヒシ
ヒシ
メサマシ
ドレ
イキヅ
寝
おぼえず
イツ
紫上
抱
驚

さいふせうめどんなどハ
大まへハ惟光と法師小女房の
名とといそまてるハ惟光
もかくまでよハ
ようとるあ
義小惟光この
べ
べとあまバそれも
原文
髪
搔
原文
サアオイデ
使
原文
ネトボケ
原文
ニンガン
抱
イヤ
原文
コレミツ
此所
原文
宮
迎
テラ
○えもやまとなる

より後ゐも人はうく

湖月 源氏お納てゞ河ハやすもいき
ゐ所より紫の供よハ行くゝ有り
とゝもまゐれそ所をを車ふのせ
ゐゐゐゐ 釋 宰相ゐゐゐて
向てもゐく出ゐのゐさ海ゐてゞ
よいとゐくゐうゐれゐとゐゐし
よゐぬひ一はてゞもゐく

湖月 上よゐゐひいとゐむけとひ
ゐるゐゐバとゐゐ一そ尼へ
釋 かくゐゐゐにゐゐふよゐゐひ
しといひゐゐ一もゐゐ一ゐ衣
ゐゐゐくてとゐくゐいもゐくゐきゐり
ゐゐゐきとゐゐゐ

ひきさげて 玉 指さゐ精悦日
記ゐずゐ引ゐゐ絶ひきさげゐと
ゐり提ゐ字ゐてゐゐえて拉と
ゐるゐゐゐ

うゐのゐゐよ 釋 院の西の方ゐ
る對ハ母屋ゐ對して
建ゐる屋をいふ
ゐゐゐゐをいゐ 釋 上ゐゐゐ
いゐゐて出ゐゐバとゐり一首尾
やゐゐへバ 釋 車ゐゐゐゐて

まゐゐまよう。とゐ行へバ。ゐんゐゐて
しゐゐゐ(問)ゐゐふゐいとびんゐゐゐん行ゐゐ。
(サワギテ)
ゐゐのゐゐきゐりんよハいゐゐ海ゐゐゐゐ
やゐゐ。ゐゐゐゐ(然)ゐゐゐゐ(間)ゐゐゐゐ(徑)ゐゐゐゐゐゐゐ(扇)ゐゐ
(アケウ)
しゐゐゐば。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐひゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
(ガケナイ)
人ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
(メイソクニ)
のゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
(アトカラデモ)
よゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
思ひゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
しゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
(泣)

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

もさづらあるべのおがりのさまりんと。
いふ（成）ぞてきふべたばひわきはあるぞ（竟）
てもあるてもぞあれありきんくよぞおるてき
ぞいくまんくるぞいみぞさとろろぞ（母君尼君ナド）（後）
まるぬをぞさびぞよゆくきれぞ。ねんじ（カケシクテ）
ぬるるぞこあるまはてみのるぬたいるまバ。（忌々）（コラヘ）（對）
ぞ（西ノ對）ぞれなるるるぞ。怪えるて。（源）（任）
はて丁は屏風などあるかくさるてきせ
ぞれぞれ（ソコラアタリ）（コレラヘタラ）
ぞ（惟）ぞれぞれぞれぞれぞれ。（引）（下）（御）
しるぞぞ。きぞひきつるるふざるるて
あきぞぞひんぐれめいよぞるるるれ（座）（東）（對）（食ノ類ヘ）

（静）

めるはるるるてぞはるるのごるぬるるる。（イ）
いとむるるるぞぞるるるるるるるんぞるる（キミ）（ワルク）（戦）
そるるるるぞぞるるるるるるるるるるる（泣）
（懸）
ぞるぞぞ納えぐわるるるるんぞるるるる（トコロ）
いるわる。今るるるるるるるるるるるるる（モハヤサウハ）（幼）
きぞぞぞるるるるるるるるるるるるる（教）
なるるるるるるるるるるるるるるるる（乳母）（ネラレズ）（テ）（ツラクテ）
ぞるるるるるるるるるるるるるるるる（明）
るるるるるるるるるるるるるるるるる（大殿）（造）（飾）
るるるるるるるるるるるるるるるるる（ニモオヨバズ）（沙）
るるるるるるるるるるるるるるるるる（累）（耀）

お納えるるるるるるるるるるるるる（イ）
あるるるるるるるるるるるるるるる（戦）
（湖）あるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。（評）るるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。（泣）
るるるるるるるるるるるるるるるる。（釈）お納
るるるるるるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。（釈）女房の作るるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる。（釈）これ女蔵の御
るるるるるるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。（釈）むしるる女
るるるるるるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。（釈）粥は朝飯の御
るるるるるるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。

[illegible] 図 和名抄 唐韻云鱧和名加太賀由厚粥也とあるて今の人れ粥に米を蒸こ合せる是也 仮とハ素麺也よてむしるを云

さるべきさくく 西 ちなのかとめ[illegible]

ちづけてしをハ 訳 メづけて久保 つけたのさしひるハ人めを惜りあふしあるべし

ちひさたるぎりてとさしに

玉 てそそふハ俗よりよるべてとまてるぎてふきまぶりとりとと思ハ世をよまとをまてく

訳 源氏ものはるよまとをれて ふりめるあるべし

かくくりくるみてをて

訳 よるまあたふりのつりとちれハ 物ぐるしとけぶてのあるあるだし なふるくくるあるをとと のまりるし

ちてるあるハ 訳 ぼ[illegible]まぎ ちもてられど世よ人ハ源氏ものあるべ[illegible]あるハ人ぶりうむ人ふてふたくさんやとよふ ちてとんるべし

こもさてるふちしまるくとひるれど。

さつるこるハ女房ども[illegible]ばりてわ。 西ノ對 イ女房ども

うとたまらうどおどみまるをりふの 賜 客 イのナシ 侍

るありてれでをとどめどみをのとた 人 男子

みてるるかくくむくまつりとものきくくハ。 内象 イのナシ 簾 外

生れあるくんぱおぐろけまるあしとさめく。 サ、ヤリ ヒト、ホリ

ぬてるづけりるおどこるふまるる日生 水 手 粥 ニ井ラス

うるわるさるひくぱくなるてあるるを。 高 起

ちるぶまくくタぬるてるてハむくさを 然 附

ぬをもめとのをひくたのようるべめし 東ノ對 童女 召

よるるちひさたるぶるうことさるた 少 バカリ ベツダンニ

まるまとあるれバいとをるげて。 ウツクシケ

思人余るるるをあるるるをれる 紫 衣

くるるをるをるるるてかるるる イハ シヒテ 起 ツツ

なんや女ハんやるるなんよるあど。 ムサトシタル 如此 和 系

ハヤカラ

今よりるくくくよりといみどうきるる 浄 近ノテハ 涼ノ

ぬてなるるるるるるるるるて。 取 紫ニ

絵。あそびおどんとりよはるるるるてんを

なりるはるよるるるきまるるるるる

黒 ソロく イのそ 鈍 ウツク

ひんげのるよ

今よりるくくくよる

西 おかもんのまるるおるるる

んだやとおりわくくるまる

るるるるあのくくるやるるる

いくよりくるくんてんとちびれと

ばくくるる

玉 これハ上下の

ものるるるるるるるもるくくる

ちをるるるるるもるくくる

玉 西 ものの月るるるるるる

源氏ものるるるるるるる

るるるるるるるるるるるる

きるくくくくるるるるるる

きるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるる

る

やうれるがうちあるるどもをきのひて。（イキハナレ 者）
仏むあくうちをくなどてみたへるぶいを
うたてきよられもおちまきて月屋（原）
ふひんげーの世（對）いよわるうめてるふ（世）ちち
いでくこ屋れこぐち池のるるどのぞき（水 立 方）
まへぐ。おぐきれ世我をよりけるやうふ
おりるくて。月もちめ四位め位こ
きまぜるよ。池のるいでいりてぞふを（イ山ノ形 ナルホド オ）
うーきて形るとおぐ位屋風ぐちぐ
モシロキ
いとをうき絵をみつ。ちぐきれて（心ヲ）
おるるもたるのーや。君たて二三日内（禁中 源氏）

對の月が位をへ世のふたちる
世ゆるめ三いぐるる
四位め位こ位ま世ぐ
河古今ひん位を抑屋をるき
まぜて位ぐをるのうに位ちるる
月ゆるるかるぐ位ふのるるーふ
えるるんりるひこ位ま世ぐーく
世ゆる屋君の方まそはえもう
るりぬ四位め位ぐもひまるく世
へまるるをめづしとえるるこ位
まぜまるへ四位の世絶め位の
抑花ぐちまぐちるるをえるの抑
まるるるこう位ま世てとのまれるり
こ位はうるとりるまるーくを世て
位ちるふ力のりる初を世屋波の
ちりひまるるるのるる 勅 こるは
こ位も位も位も世位もりるる安人
ぐどるるまてるぐまるで世てはる文の抑
まるぐまる春ーて四位め位るのる
まーりるのぐこ位ま世ぐとりひまるる
てまるべーー

歌 世ふりるーこは初るる
るるのぐまるるへぐとあるパりぐの
抑びあーまるりー位ゆるり

所屋風ぐもちぐるる
小 上ゆ屋風のるりる西ぐ
りるはなれ花ゆつるちるる西
まぐをりるるまるるーと行るる
初位のぐるーー
やぐてれみりと 釈 すぐふ内ゆ
れりるるくとるぐ位るるやとる
むすーりるとりぐ
河 ちりるぐもむざ世とりぐ
るるれぬりやざるるるむるる
のりる 鑑 古歌ゆるゆ 細 花草の
位ゆりるとる

釈 世位れりりのりりる位るるる
ゆ位ば屋るるもりるてりる位るりる
ぐりれ位るるるりるぐーー
するるちひまるるて 潮 るの世るりる
抑位るるりぐるる 花 草の花を
屋るるるふりるる葉まりお蝶ゆ
剥るるるるるるるるるるるる抑ゆ
けりるるりるるるるを人の抑りん
るるをるぐるゆるるるる抑ゆ根を
屋るるるるる 風 るるりるけりるる位
花草のるるりるぐーー 釈 いまぐ

へとやのあわ抑りでぐの人をるつけくる
らひやまるふやぐてちんみめとおぐ位ちや
まりるるひ絵るぐるるぐるりる位るるん
をやりるりるいるるぐりるりをりぎりよりかま
りりるん抑へりむるーりるるいるるれ
集
ぬとむるるるのるりるりかいりるるぷるるるづる
紙
乃いとるるるるるるるるるるるるるるるるる
別
るるるるるるるるるるるるるるるるる
原
神ちるねどあるれとぐおりりるむるるのく
るりりりりりるるるるるるるるるるるる
るりりりりり

寝ハ[illegible]ひとあそこ[illegible]ハ[illegible]
ゲ[illegible]ハ[illegible]ゲ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

さしすぐしてるんぐせの

釈 お祖父さまとうさまとるんの御ろ
よぜそをゆるのうへうさまを
仰ぎなげ奉ぎよハのぐれて
ゆまりをてあてゆりゆんと
ちうゆのうゆハいでへうるさま
おりふるさまとうさまそ臣
りゆ出なゆバえく

釈 故月ふこれを長恭ろ宗の甲れ
ふつげ出のふ祖ってるぐく
しくとゆそと故よおるくの
ゆくとゆるハまふさるとあるを
さてハうぐくそくくとあるぐゆ
切ぎってぐうるゆのーるを
あふこを出ハ宗のはんるてゆりゆ
出をーバ出よと甲のんくゆのさ
まゆゆるぐうりくてさもえのさ
まりぬさるゆるでれ程ゆるゆバ
ゆげくく故月のゆるってうりよ
ぐゆーを削るうるくて ハゆるべし
あるとるゆるくて 王 信孝のりと
へ信ゆうゆるゆるさくくよゆくへ去
らるてぬよりく
小方も母君をるく

釈 長恭ろ

よゆもいつゆひゆうゆけりて。故こあるぐんも。
かるよるて宮紫ノ ゆゆりんまをいとるのりと
ゆけりさりしるおきぐゆんのるゆいるさ
すぐるるんぐせのゆまりゆ。ゆいるるゆ。
わあるさんをびんなどハいるでんるゆるる己ノ
きくゆてるぐるうるゆるゆんるとゆくく
かるるゆるひぬりきゆ出なゆバつげよゆと告
のるゆるるぐるりゆ。 く 信孝のゆりるゆるる
るぐるゆるくゆどあるるれるるゆあるる可惜
るりしるるゆるど。るくくるるりるゆと容貞
るる。小のるるるる。ゆんをゆくるゆるゆるる
宮ノ北方へ 紫上ノ母君へ

宗の中方もゆるるの母君をゆし
るるひゆるるんゆるるせく
ゆるるるるるるるるるるゆるるゆ
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる
る

いとをう
おとうかをとられバ　湖　源氏ものがたり
くすりをへぐと
さるうさこハ　釈　けるうさこハも
てあそびものゝ方ハとのさ
あり武次ようハるうふらう
きうをあく述うと
さうらんあり
湖師　さうらんハ嫉妬ぐのうさ
をいふくまぐちとハ男のひを
いふくもうぐちとハ女をいふ
あり　釈　年ごろてもこゝ
夫婦とあくふりさうらん
あそもうりさすぢふねこ
ぐすばかりふもさぐふも出
未やをんとんもかうへしさう
バ女がこも恨くぐちとありく
恋ふのゝもの和といでこん
を今ハまぐさうこもあるまべ
をうこき数びかゝといふさる
むすめすぐこう
釈　まこの娘
おくハるぐのまぐふあるまバ
かくいもをくるまひて懐入

今ハ平ぐこの後れ水やをいみぐこうむり
びよりそ　纏
出むひくぐ　向
よいうあくぐ　入居
おひひこぐ
こうたぐちうよりさうらんあり
くまてもむ
ゆうりきすぐこよれうぬまバ
こうちもぐ　今心
こうぐふぬもいでくやと
こうぐおうれ　キカカレ　紫
此事もおのづこいでこうぐ　自然ト
そびなをむすめあぐこうぐうり
息女　モノカタコレホド

ゆうこもふりあぐへぐこうあき
さもうハえをもぐたよこをを
つひよ夫婦とあるべき人なれバ
さうこうこうづき移とお
ぐをこうあり
これハいとさぬこうこうあ
国　こをハまこのむすめこふさ
まうこうこうづきぐぐこと
ほよのたまれ夫婦のこうこひ
のやうこもあぐこうくとまぬの
事へもうけていうハこうり
づきぐさこうりこうむすめこうたくこうあ詞こ夫婦のこうれさありこうこ
ふ上ふいひくこうこへハかうあ事こ
釈　この物語さこのこうれさありこうこ
こ源氏ものをとをこうつくふたひく
ほぐりこうこ代いひくこうあくこぐをこれこう次のまぬふをの事ふ一巻
ほよみをこうれバむこうこれのこいこもうつこうたこうこ
とこをこのこ又野こうこ孫をひこすべく結びこうあり

国立公文書館
National Archives of Japan